

## 学生の確保の見通し等を記載した書類

学校法人新田塚学園  
福井医療大学大学院  
保健医療学研究科  
保健医療学専攻

# 目 次

## I 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

### 1 学生の確保の見通し

- 1) 定員充足の見込み . . . 1
- 2) 入学定員設定の考え方 . . . 2
- 3) 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要 . . . 3
- 4) 学生納付金の設定の考え方 . . . 4

### 2 学生確保に向けた具体的な取組状況 . . . 5

## II 人材需要の動向等社会の要請

- 1 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要） . . . 6
- 2 社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものである  
ことの客観的な根拠 . . . 7

## 資 料

- 資料1 福井医療大学の位置
- 資料2 入学意向アンケート
- 資料3 採用意向アンケート

# I 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

## 1 学生の確保の見通し

### 1) 定員充足の見込み

- ① 福井県には保健医療学関係の大学が本学を含め、4校ある。そのうち、看護学科を有する大学が4校、リハビリテーション学科を有する大学が本学1校のみである。  
また、福井県の保健医療学関係の大学院修士課程は3校あり、そのうち、看護学専攻を有する大学院が3校である。
- ② 理学療法士養成課程、作業療法士養成課程、言語聴覚士養成課程を有する大学は、福井県では本学1校のみである。
- ③ 本学の入学者数の福井県出身率が過去3年間で81.4%～90.0%であり、新田塚学園が運営していた福井医療短期大学の卒業生数のうち、就職した者の福井県就職率が過去3年間で65.5%～74.5%あった。

表1 福井医療大学 入学者の県内・県外比率 人(%)

2019年度	学科	県内出身者	県外出身者	計
	リハビリテーション	86 (83.5)	17 (16.5)	103
看護	57 (85.1)	10 (14.9)	67	
計	143 (84.1)	27 (15.9)	170	

2018年度	学科	県内出身者	県外出身者	計
	リハビリテーション	84 (82.4)	18 (17.6)	102
看護	56 (80.0)	14 (20.0)	70	
計	140 (81.4)	32 (18.6)	172	

2017年度 開学年度	学科	県内出身者	県外出身者	計
	リハビリテーション	89 (87.3)	13 (12.7)	102
看護	69 (93.2)	5 (6.8)	74	
計	158 (90.0)	18 (10.0)	176	

表2 福井医療短期大学 就職者の県内・県外比率 人(%)

2018年度 (最後の 卒業生)	学科	県内就職者	県外就職者	計
	リハビリテーション	64 (66.7)	32 (33.3)	96
看護	53 (78.0)	15 (22.0)	68	
計	117 (71.3)	47 (28.7)	164	

2017年度	学科	県内就職者	県外就職者	計
	リハビリテーション	62 (59.0)	43 (41.0)	105
看護	50 (75.8)	16 (24.2)	66	
計	112 (65.5)	59 (34.5)	171	

2016年度	学科	県内就職者	県外就職者	計
	リハビリテーション	81 (77.9)	23 (22.1)	104
看護	39 (68.4)	18 (31.6)	57	
計	120 (74.5)	41 (25.5)	161	

- ④ 本学は福井市中心部である福井駅から約12kmの距離にあり、福井県嶺北地方の病院、施設で働きながら大学院に通学できる環境である。

【資料1 福井医療大学の位置】

本学は県内出身者が多く、尚且つ県内就職者が多い。またリハビリテーション学科を有する大学は本学のみであり、リハビリテーション系の専攻を有する大学院は県内にないことから、本大学院開設にあたり、本学卒業生に対する学生確保の見込みは十分期待できる。

また本大学院では、入学生を看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士の資格を有する者が多くを占めると想定しているが、上記の資格を有しない介護福祉士、社会福祉士、精神福祉士、保健師等の医療従事者も入学可能としている。

2) 入学定員設定の考え方

本大学院の保健医療学研究科保健医療学専攻では、「運動器リハビリテーション」、「神経系リハビリテーション」、「健康生活支援」の3つのコースを設定した。3つのコースで1学年各3～4名を想定し、学生入学定員を10名とした。収容定員20名の学生に対して、十分な教育と研究の指導が出来るように教員を配置する。

本学の位置する福井県と通学可能圏内にある石川県の看護系、リハビリテーション系の専攻を設置している大学院修士課程は7校あり、看護系、リハビリテーション系の専攻のみを設置している6校の入学定員の平均は8.5人である。

表3 福井県、石川県の看護系、リハビリテーション系の専攻を設置している大学院修士課程の入学定員数と入学状況 人

所在地	設置区分	大学名	研究科区分	入学定員	入学定員平均	2019年度入学者	2019年度充足率
福井県	国	福井大学	看護系	12	8.5	13	1.08
福井県	公	福井県立大学	看護系	10		7	0.70
福井県	公	敦賀市立看護大学	看護系	8		9	1.12
石川県	公	石川県立看護大学	看護系	10		8	0.80
石川県	私	金沢医科大学	看護系	6		6	1.00
石川県	私	金城大学	リハビリテーション系	5		4	0.80
石川県	国	金沢大学	リハビリテーション系、看護系 医療科学系	70	-	58	0.82

出典 各大学ホームページで情報公開されている情報をもとに作成

### 3) 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

本学は、令和3年3月に1期生の卒業を迎え、以後毎年、約180名の卒業生を輩出していく予定である。本学学部の卒業生が本大学院に入学することは、研究的な能力をさらに向上させ、修了後は、現場での臨床経験を重ね、優れた医療従事者になると考えられる。

#### ①福井医療大学の入学者実績

本学の入学者数の推移は以下の通りである。

大学全体の定員超過率は、安定して推移しており、志願者数も定員を十分に上回っている。本学卒業生の県内就職率は福井医療短期大学での実績と同様に高いと予想する。今後、本学卒業生が県内医療機関等で勤務をしながら、本大学院に進学する選択肢が増えることから、安定的な定員の確保が見込まれる。

表4 福井医療大学入学者数推移

保健医療学部		2017 年度	2018 年度	2019 年度	定員超過率 平均
リハビリテーション学科	定員	120	120	120	0.85
	志願者数	257	188	196	
	受験者数	251	178	171	
	合格者数	211	159	162	
	入学者数	102	102	103	
	定員超過率	0.85	0.85	0.85	
看護学科	定員	60	60	60	1.16
	志願者数	256	350	255	
	受験者数	243	335	245	
	合格者数	111	124	138	
	入学者数	74	70	67	
	定員超過率	1.23	1.16	1.11	
計	定員	180	180	180	0.95
	志願者数	513	538	431	
	受験者数	494	513	416	
	合格者数	322	283	300	
	入学者数	176	172	170	
	定員超過率	0.97	0.95	0.94	

## ②私立大学院の保健医療学研究科の状況

平成31年度の私立大学院研究科において、保健医療学の入学定員充足率は、100%を超えており、入学定員を満たしている。

看護学、リハビリテーション学、保健科学については100%を下回っている。

表4 主な私立大学院研究科別の志願者・入学者動向

研究科名	集計研究科数			入学定員(人)			志願者(人)			入学者数(人)			入学定員充足率(%)		
	30年度	31年度	増減	30年度	31年度	増減	30年度	31年度	増減	30年度	31年度	増減	30年度	31年度	増減
保健医療学	10	12	2	87	103	16	13	135	32	94	111	17	108.05	107.77	△0.28
リハビリテーション科学	4	4	0	34	34	0	18	29	11	18	27	9	52.94	79.41	26.47
看護学	57	60	3	606	628	22	592	529	△63	466	417	△47	76.90	66.72	△10.18
保健科学	3	3	0	24	24	0	19	17	△2	19	15	△4	79.17	62.50	△16.67

出典 平成31年度私立大学・短期大学等入学志願動向(日本私立学校振興・共済事業団)抜粋

## ③入学意向アンケート調査結果

### 1) 調査の目的

大学院設置にあたり、大学生、医療機関等で働く社会人の進学意向を定量的なデータから確認することを目的として、第三者機関に委託し、アンケート調査を実施した。

### 2) 調査の概要

福井県、石川県、富山県に所在する本学を含む看護系、リハビリテーション系の学科を設置している9大学(開設年度の受験対象者)並びに、本学の臨床実習、研究活動の協力施設である、大学関連グループの医療機関等9施設に調査を依頼した。その結果、991人の回答が得られた。

### 3) 調査結果の概要

調査結果によると、福井医療大学大学院保健医療学研究科保健医療学専攻(仮称)への進学意向は、「進学を希望する」が27人(2.7%)、「進学を検討する」が61人(6.2%)で、何らかの進学の意向を持つこれらの回答者の合計が88人(8.9%)となり、「進学を希望する」で入学定員(10人)の2.7倍、「進学を検討する」まで含めると8.9倍となることから、福井医療大学大学院保健医療学研究科保健医療学専攻(仮称)への一定の進学需要があるといえる。

また、関心層の進学希望時期は、「2021年4月(開設時)」17人(25.0%)、「開設1~4年」16人(23.5%)、「開設5年以上」3人(4.4%)となっており、さらに「進学時期は決めていない」23人(33.8%)、「わからない」9人(13.2%)となっていることから、開設時だけでなく開設後も一定の継続的進学需要があることが窺われる。

設問6において、『進学したいと思う』が69人いて、3つのコース明確に選択した人数は、運動器リハビリテーションコース14人、神経系リハビリテーションコース18人、健康生活支援コース19人であった。

また実務年数では、69人中、5年以下が8人、6~10年が14人、11~15年が10人、16~20年が7人、21年以上が6人、無回答が24人であった。

## 【資料2 入学意向アンケート】

#### 4) 学生納付金の設定の考え方

学生納付金の設定については、本大学院の研究教育活動を、継続的で健全に運営できる収入を勘案し、以下のとおりに設定した。本学の卒業生には入学金の免除を予定している。

表5 福井医療大学大学院の学生納付金

		保健医療学研究科
		保健医療学専攻
入学金		200,000
学費（前期分）	授業料	300,000
学費（後期分）	授業料	300,000
<b>初年度納入金額</b>		<b>800,000</b>

本大学院が競合すると思われる福井県近隣の学生納付金の状況は以下のとおりである。

表で示した初年度納入金額は平均額が833,000円であり、本大学院の保健医療学研究科は平均を下回る金額に設定している。

表6 福井県近隣における看護系、リハビリテーション系の大学院修士課程の学生納付金  
(円)

所在地	設置区分	大学名	研究科名	授業料等	入学金	初年度納入金額
福井県	国	福井大学	医学系研究科看護学専攻	535,800	282,000	<b>817,800</b>
福井県	公	福井県立大学	看護福祉学研究科	535,800	188,000	<b>723,800</b>
福井県	公	敦賀市立看護大学	看護学研究科	535,800	332,000	<b>867,800</b>
石川県	国	金沢大学	医薬保健学総合研究科保健学専攻	535,800	282,000	<b>817,800</b>
石川県	公	石川県立看護大学	看護学研究科	535,800	423,000	<b>958,800</b>
石川県	私	金沢医科大学	看護学研究科	500,000	200,000	<b>700,000</b>
石川県	私	金城大学	総合リハビリテーション学研究科	745,000	200,000	<b>945,000</b>

出典 各大学ホームページで情報公開されている情報をもとに作成

## 2 学生確保に向けた具体的な取組状況

広報活動を実施し、本大学院の目的、教育課程、教育方法、学生生活、入学試験に関する事項の情報を提供し、本大学院への理解を深めてもらう。

設置認可後の学生募集の方法は事務課入学広報室で年間計画を立案し、入学試験会議の議を経て以下のとおり実施する。

### ①オープンキャンパス

研究科説明、個別相談、大学院生と語る会、学内見学を実施する。

### ②紙媒体での広報・学生募集

主要な受験関係雑誌に本大学院入学試験情報を周知すべく広告を掲載する。その他、研究科、施設、学生生活等を総合的に説明した大学案内と入学試験要項を頒布する。

### ③電子媒体による広報・学生募集

主な受験関係webに掲載するだけでなく、本大学院のホームページを開設し、研究科、教育課程、施設などについて紹介する。また、オープンキャンパス、入学試験案内のスケジュールなどの教育情報の提供も行う。

### ④訪問、郵送による広報・学生募集

近隣の大学就職課、病院人事課、看護協会、理学療法士会、作業療法士会、言語聴覚士会、介護福祉士会、社会福祉士会、精神保健福祉士協会への訪問又は郵送で大学案内と入学試験要項を頒布する。

実施した入学意向アンケートの要望には、臨床につながる研究、学費割引、育児・家事の時間確保について記載があり、本大学院では、入学金免除制度、隣接の関連施設への本大学院在学中の採用依頼、日曜、祝日は授業をしない等を今後も検討していく。

本学の学部生で、優秀で、研究活動に興味があり、今後も研究を継続したいと考えている学生に対して、積極的に大学院進学を勧める。

## II 人材需要の動向等社会の要請

### 1 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

本学は、保健医療学を「あらゆるライフサイクル、ライフステージ、場にある人々の生涯を通じての健康管理を補助し、疾病・障害発生時には早期の回復を促す為の最適な援助方法を研究する、リハビリテーション学と看護学を包括した学問」だと捉えている。この度、設置を計画している大学院保健医療学研究科保健医療学専攻では、この保健医療学の定義に基づき、地域への健康政策や地域住民個々の健康増進と回復、疾病・障害の予防と治療、に関する教育を行い、高度専門職業人の養成を行う。

本研究科においては、障害の2大原因とも言える、①運動器機能障害、②脳・神経系機能障害に加え、③健康増進や疾病予防の観点から、医療関連領域において臨床・研究・教育等に寄与できる高度専門職業人を育成すべく、保健医療学専攻に①「運動器リハビリテーション」、②「神経系リハビリテーション」、③「健康生活支援」の3つのコースを設定した。

各コース修了者が活躍する場としては、以下のことを想定している。

#### (1) 運動器リハビリテーションコース

各種スポーツ団体、医療・介護の諸施設において、高度専門職業人としての能力を発揮し、職員の能力向上を指導的立場から支援する。また、行政、医療関連企業等において、スポーツ傷害の予防・治療に関する研究、政策企画、製品開発のアドバイザーとしての業務を行う。

#### (2) 神経系リハビリテーションコース

地域での介護予防事業、医療・介護の諸施設において、高度専門職業人としての能力を発揮し、職員の能力向上を指導的立場から支援する。また、行政、医療関連企業等において、介護予防、神経系疾患に関する研究、政策企画、製品開発のアドバイザーとしての業務を行う。

#### (3) 健康生活支援コース

医療・介護の諸施設において、高度専門職業人としての能力を発揮し、職員の能力向上を指導的立場から支援する。また、行政、医療関連企業等において、健康増進、疾病予防、障害された健康の再獲得に関する研究、政策企画、製品開発のアドバイザーとしての業務を行う。

各コースの養成する人材像

#### 「運動器リハビリテーションコース」

病院、施設、地域などの臨床現場、競技スポーツや障がい者スポーツなどのスポーツ現場において、運動器障害をもつ対象者に対し、傷病に基づいた適切な評価やリハビリテーションを行い、専門性を活かした上での支援を実践できる人材、さらに運動器、スポーツ医学に関する研究課題を探求し続け、各々の領域でのリーダー的役割を担える人材を養成する。

#### 「神経系リハビリテーションコース」

神経系疾患を科学的に理解し、研究課題を探求し続け、さらに病院、施設、地域などの臨床



現場において、各々の専門性を発揮することで、病態に基づいた適切な評価や治療に結びつけることのできるリーダー的役割を担える人材を養成する。さらに多職種の多面的観点を支援に活かしながら実践、マネジメントし、社会情勢の変化や実践に基づく生活支援の研究課題を探究し続け、地域生活の維持に貢献できる人材を養成する。

#### 「健康生活支援コース」

あらゆるライフサイクル、ライフステージ、場における人々が健康な生活を維持あるいは回復し新しい生活を構築していくための支援方法を、それぞれの専門性の中にあるプロフェッショナルリズムを発揮し、多職種の多面的観点を支援に活かしながら実践できる人材を養成する。さらに社会情勢の変化や実践に基づく健康生活支援の研究課題を探究しつづけ、健康生活の向上に貢献できる人材を養成する。

## 2 社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

### ①福井県医療計画

福井県の医療人材の確保と資質の向上のために以下の計画が立案されている。福井県の平成30年3月第7次福井県医療計画では、看護職員について以下のとおり述べている（一部抜粋）。

#### I 現状と課題

看護職員の就業場所としては、平成28年末で病院と診療所に73.9%、介護保険関係施設に14.0%、訪問看護ステーションに3.8%となっており、近年、在宅医療・介護保険制度の充実に伴って在宅分野への就業が増加しています。

また、平成23年から平成27年までの看護職員の需要と供給の見通しを推計した「第7次福井県看護職員需給見通し」では、平成27年には看護職員の需要が12,357人、供給数が12,290人となる見通しでした。第8次受給推計は、平成30年度以降作成する予定です。

県内の看護職員の養成機関は、平成29年現在で10校あり、1学年入学定員は420人となっています。平成28年度の卒業生のうち、看護職として就職した者の県内就業割合は72.5%であり、今後、さらに多くの県内就業者を確保していく必要があります。

平成27年10月より、在宅医療等の推進を図っていくために、看護師が医師または歯科医師の判断を待たずに、手順書により一定の診療の補助行為を行うための研修制度（看護師の特定行為研修制度）が開始されました。

県内では、福井医療大学が特定行為研修機関として厚生労働大臣より指定を受けています。また、特定行為研修修了者は、平成29年6月時点で4人となっており、今後も研修修了者の養成と確保を図る必要があります。

今後、急速な少子高齢化の進展や在宅医療の推進に伴う医療ニーズの増加、安全・安心な質の高い医療の提供、予防対策等の充実強化を図るため、保健・医療・福祉の各分野において看護職員の充足が求められています。

今後とも、看護職員の充足に努めるとともに、新たな健康課題や複雑・多様化する保健や医療ニーズに対応できる質の高い看護職員の養成と確保を図る必要があります。

#### II 今後の目指すべき方向

##### 施策の基本的方向

##### ○看護職員としての資質向上

県看護協会、県医師会、看護系大学等と連携し、専門分野別や病院の規模別、新任期・管理期等キャリアに応じた研修を体系的に行い、保健・医療・福祉の各分野において質の高い看護職員の育成に努めます。

さらに理学療法士、作業療法士、言語聴覚士について、以下のとおり述べている（一部抜粋）。

### I 現状と課題

今後、いわゆる団塊の世代が全て75歳以上になる中、身体的、精神的に多種多様な困難を抱え、リハビリテーションを必要とする患者や予防が必要な人が増加することが見込まれます。また、患者ができる限り早く社会に復帰し、住み慣れた地域で暮らせるようにしようとしている地域医療構想を推進していくためには、リハビリ機能の充実や地域全体で治し支えていく仕組み、予防活動がより一層求められることとなり、理学療法士、作業療法士および言語聴覚士の役割がますます重要になります。

### II 今後の目指すべき方向

#### 施策の基本的方向

##### ○理学療法士、作業療法士および言語聴覚士の資質の向上

回復期病床をもつ医療機関が実施するリハビリテーション機能を充実するための設備整備を支援するとともに、県理学療法士会、県作業療法士会、県言語聴覚士会の協力を得て、資質の向上やリハビリテーションを支える職種間の連携強化に向けた取り組みの充実を図ります。

加えて、社会福祉士、精神保健福祉士等について、以下のとおり述べている（一部抜粋）。

### I 現状と課題

高齢化の進展や医療需要の高度化・多様化に伴い、医療サービスの範囲が拡大するとともに、その内容の専門化・細分化が進んでいます。また、医療機関の急性期、回復期、慢性期といった機能の分化が進むなか、機能に応じた専門的な医療の提供と切れ目なくサービスが提供されるよう医療機関や職種間の連携が重要となっています。

### II 今後の目指すべき方向

#### 施策の基本的方向

##### ○医療現場の実態やニーズに応じた医療従事者の確保と資質の向上

医療機関や職種間が連携し、患者に切れ目のない適切な医療が提供されるよう、また、日常的な健康維持や予防活動等、今後の需要の動向に対応できるよう、関係団体の協力を得て、医療従事者の資質向上を図ります。

本大学院保健医療学研究科を設置することは、自治体の医療計画にも合致しており、近隣地域における人材需要の動向に沿うものである。

## ②採用意向アンケート調査結果

### 1) 調査の目的

大学院設置にあたり、本大学院の修了生の採用意向を調査することを目的として、第三者機関に委託し、アンケート調査を実施した。

### 2) 調査の概要

福井県、石川県、富山県、岐阜県、滋賀県、京都府のうち、新田塚学園が運営していた福井医療短期大学、福井医療技術専門学校の卒業生が就職した医療機関、本学に求人依頼のあった医療機関、合わせて300事業所に調査を依頼した。その結果、108事業所より回答が得られた。

### 3) 調査結果の概要

調査結果によると、福井医療大学大学院保健医療学研究科保健医療学専攻(仮称)修了者の採用意向人数は、「採用したい」が16事業所(内4事業所は未回答)19人、「採用を検討したい」が25事業所(内5事業所は未回答)33人となっており、これらの合計は人数を回答した事業所のみで52人となっている。この数値は、福井医療大学大学院保健医療学研究科保健医療学専攻(仮称)の入学定員(10人)の1.9倍、「採用を検討したい」まで含めると5.2倍となることから、福井医療大学大学院保健医療学研究科保健医療学専攻(仮称)修了者に対する一定の採用需要があるといえる。

加えて、回答事業所の過去3年間の大学院修了者採用人数は、2017年度10事業所23人、2018年度11事業所23人、2019年度9事業所22人でいずれも20人以上を採用していることがわかる。このことから、回答事業所全体としても一定の継続的な大学院修了者の採用需要があることが窺われる。

#### 【資料3 採用意向アンケート】

また、平成30年10月5日の理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則の一部を改正する省令にて、理学療法士、作業療法士である専任教員について、以下のとおり改正があった。

改正前は、「免許を受けた後五年以上理学療法、作業療法に関する業務に従事した者」となっていたが、改正後は短期大学、専門学校を卒業した者が専任教員を志望する場合、免許を受けた後五年以上理学療法、作業療法に関する業務に従事した者であつて厚生労働大臣の指定する講習会を修了する以外に、免許を受けた後三年以上理学療法、作業療法に関する業務に従事した者が、本大学院で教育学を四単位修得し、課程を修了すれば、養成施設の専任教員になることができる。

本学のリハビリテーション学科理学療法学専攻、作業療法学専攻の専任教員のうち、新田塚学園が運営していた福井医療短期大学、福井医療技術専門学校の卒業生が13名いることから、今後、大学院を設置することで、専任教員の確保が十分にできることとなる。

(一部抜粋)

(理学療法士に係る学校又は養成施設の指定基準)

第二条 法第十一条第一号の学校又は養成施設に係る令第九条第一項の主務省令で定める基準は、次のとおりとする。

一～四 (略)

五 理学療法士である専任教員は、次に掲げる者のいずれかであること。ただし、当該専任教員が免許を受けた後五年以上理学療法に関する業務に従事した者であつて、学校教育法に基づく大学(短期大学を除く。次条第一項第四号において「大学」という。)において教育学に関する科目を四単位以上修め、当該大学を卒業したもの又は免許を受けた後三年以上理学療法に関する業務に従事した者であつて、学校教育法に基づく大学院において教育学に関する科目を四単位以上修め、当該大学院の課程を修了したものである場合は、この限りでない。

イ 免許を受けた後五年以上理学療法に関する業務に従事した者であつて、厚生労働大臣の指定する講習会を修了したもの

ロ イに掲げる者と同等以上の知識及び技能を有する者

(作業療法士に係る学校又は養成施設の指定基準)

第三条 法第十二条第一号の学校又は養成施設に係る令第九条第一項の主務省令で定める基準は、次のとおりとする。

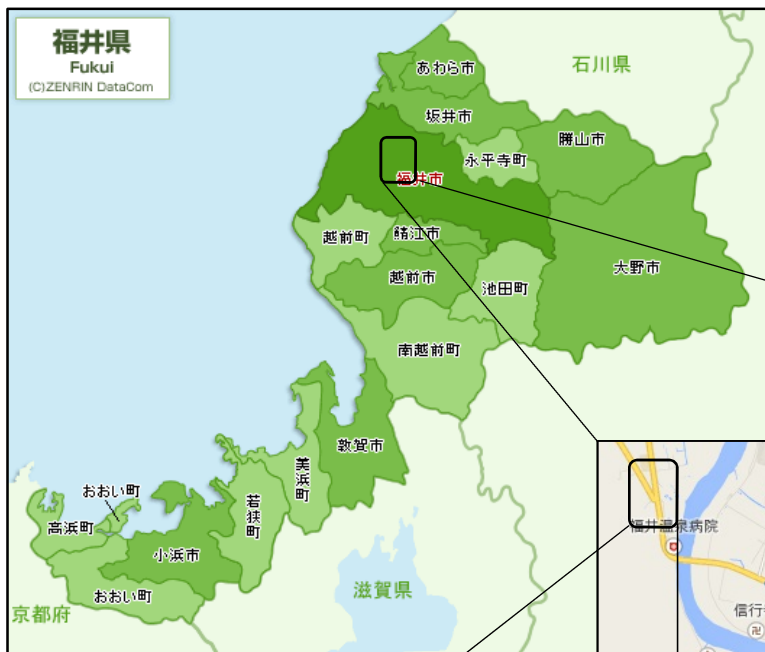
一～三（略）

四 作業療法士である専任教員は、次に掲げる者のいずれかであること。ただし、当該専任教員が免許を受けた後五年以上作業療法に関する業務に従事した者であつて、大学において教育学に関する科目を四単位以上修め、当該大学を卒業したもの又は免許を受けた後三年以上作業療法に関する業務に従事した者であつて、学校教育法に基づく大学院において教育学に関する科目を四単位以上修め、当該大学院の課程を修了したものである場合は、この限りでない。

イ 免許を受けた後五年以上作業療法に関する業務に従事した者であつて、厚生労働大臣の指定する講習会を修了したもの

ロ イに掲げる者と同等以上の知識及び技能を有する者

福井医療大学の位置



所在地：福井県福井市江上町55字鳥町13番1

アクセス

福井駅から約12km

- ・車での所要時間 約25分
- ・バス利用での所要時間 約30分

京福バス

- 福井総合病院線
- 越前海岸ブルーライン



福井医療大学 御中

新研究科設置計画に係る  
ニーズ調査報告書（大学生・社会人編）

丸善雄松堂株式会社  
Research & Innovation 本部  
大学経営コンサルティング部

 **MARUZEN-YUSHODO**

---

## 目次

1. 調査概要	2
2. 調査・分析結果の要旨	3
3. 全体集計結果	6
4. 保健医療学研究科 保健医療学専攻(仮称)への関心分析	18
5. 補記	29

## 1. 調査概要

### (1) 調査目的

福井医療大学 大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻(仮称)設置計画検討のため、本アンケート調査により大学生・社会人の進学需要等を把握し、設置計画の基礎資料とすることを目的とする

### (2) 調査対象

福井医療大学 大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻(仮称)への進学ターゲット層となる大学に在籍する大学3年生及び医療施設等に勤務する社会人

### (3) 実施時期

2019年12月2日～2019年12月13日

### (4) 回収状況

本調査では、大学9校980人、医療施設勤務者700人を対象に調査票を配布し、その結果991件の調査票を回収することができた(回収率59.0%)

なお、回収期限後に回収した大学4校241件を含めると、合計1,232件の調査票を回収したことになる(回収率73.3%)

### (5) 調査方法

調査票による定量調査(アンケート調査)

### (6) 利用調査票

添付アンケート調査票参照



## 2. 調査・分析結果の要旨

### (1) 調査結果の要旨

#### ①性別

回答者の性別は、「男性」が216人(21.8%)、「女性」が775人(78.2%)で「男性」より「女性」の方が多くなっている。

#### ②職業

回答者の職業は、「大学生」が357人(36.0%)、「社会人」が634人(64.0%)で「大学生」より「社会人」の方が多くなっている。

#### ③所属する学部学科の分野

回答者の所属する分野は、「看護学」552人(55.7%)が最も多く、「医療技術(リハビリなど)」299人(30.2%)、「その他」130人(13.1%)と続いている。

#### ④最終学歴

回答者の最終学歴は、「専門学校」277人(43.7%)が最も多く、「短期大学」255人(40.2%)、「その他」56人(8.8%)と続いている。

#### ⑤実務年数

回答者の実務年数は、「21年以上」180人(28.4%)が最も多く、「6～10年」123人(19.4%)、「5年以下」117人(18.5%)と続いている。

#### ⑥大学院への進学意向

回答者の大学院への進学意向は、「進学したいと思う」が69人(7.0%)、「今後数年の実務経験を積んでから進学したいと思う」が52人(5.2%)で、程度の差があるものの大学院への進学意向を持つこれらの回答者の合計が121人(12.2%)となっている。

#### ⑦進学時期

回答者の大学院への進学時期は、「未回答・無効回答」を除くと、「わからない」82人(8.3%)が最も多く、「進学時期は決めていない」66人(6.7%)、「2021年4月(開設時)」21人(2.1%)と続いている。

### ⑧進学先決定時の重視要因

回答者の進学先決定時の重視要因は、「未回答・無効回答」を除くと、第1位が「専門分野の能力向上」100人(8.7%)で、第2位「学費(入学金・授業料・奨学金)」74人(6.4%)、第3位「研究科等の学びの分野」71人(6.2%)となっている。

### ⑨大学院での学びの活用分野

回答者の進学先決定時の重視要因は、「未回答・無効回答」を除くと、第1位が「専門分野の能力向上」100人(8.7%)で、第2位「学費(入学金・授業料・奨学金)」74人(6.4%)、第3位「研究科等の学びの分野」71人(6.2%)となっている。

### ⑩興味・関心を持った専門領域

回答者の福井医療大学 大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻(仮称)の興味・関心を持った専門領域は、3つのコースについて、「健康生活支援コース」178人(18.0%)、「運動器リハビリテーションコース」121人(12.2%)、「神経系リハビリテーションコース」100人(10.1%)と続いている。

### ⑪保健医療学研究科 保健医療学専攻(仮称)への進学意向

回答者の福井医療大学 大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻(仮称)への進学意向は、「進学を希望する」が27人(2.7%)、「進学を検討する」が61人(6.2%)で、何らかの進学の意向を持つこれらの回答者の合計が88人(8.9%)となり、進学意向は「進学を希望する」で入学定員(10人)の2.7倍、「進学を検討する」まで含めると8.9倍となる。

なお、回収期限後に回収した大学4校241件においても、2人の「進学を希望する」回答者が確認された。

## (2)分析結果の要旨

福井医療大学 大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻(仮称)への進学意向は、「進学を希望する」が27人(2.7%)、「進学を検討する」が61人(6.2%)で、何らかの進学の意向を持つこれらの回答者の合計が88人(8.9%)となり、「進学を希望する」で入学定員(10人)の2.7倍、「進学を検討する」まで含めると8.9倍となることから、福井医療大学 大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻(仮称)への一定の進学需要があるといえる(P16)。

また、関心層の進学希望時期は、「2021年4月(開設時)」17人(25.0%)、「開設1~4年」16人(23.5%)、「開設5年以降」3人(4.4%)となっており、さらに「進学時期は決めていない」23人(33.8%)、「わからない」9人(13.2%)となっていることから、開設時だけでなく開設後も一定の継続的進学需要があることが窺われる(P25)。

ただし、「Q10)興味・関心を持った専門領域」では、「健康生活支援コース」が178人(18.0%)、「運動器リハビリテーションコース」が121人(12.2%)、「神経系リハビリテーションコース」が100人(10.1%)と、3つのコースのいずれかに関心を持つ回答者の合計は399人(40.3%)となっている。これらの合計は何らかの進学意向を持つ回答者88人を大きく上回っていることから、何らかの興味・関心を持つてはいるが現状では進学意向の無い層がいることがわかる。

また、「Q10)興味・関心を持った専門領域」では、163人(16.4%)が「わからない」と回答しており(P15)、「Q11)保健医療学研究科 保健医療学専攻(仮称)への進学意向」においても248人(25.0%)が「わからない」と回答している(P16)ことから、この層には養成する人材像や教育・研究の特色が十分に伝わっていない可能性がある。

従って、それらの層に対して、説明会等で福井医療大学 大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻(仮称)の教育・研究の目的と養成する人材像、身につけさせる能力について修了後の進路との関係性も含めて具体的に説明することで、志願者層を拡大していくことが重要な成功要因となると考える。

### 3. 全体集計結果

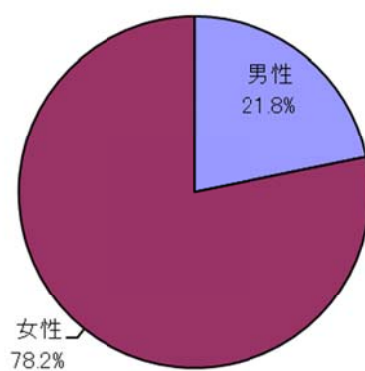
#### Q1) 性別

回答者の性別は、「男性」が 216 人 (21.8%)、「女性」が 775 人 (78.2%) で「男性」より「女性」の方が多くなっている。

Q1) あなたの性別は、どちらですか。

	回答数(人)	構成比(%)
全体	991	100.0%
男性	216	21.8%
女性	775	78.2%

Q1



\*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

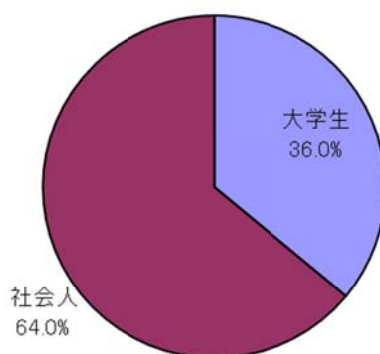
## Q2) 職業

回答者の職業は、「大学生」が 357 人 (36.0%)、「社会人」が 634 人 (64.0%) で「大学生」より「社会人」の方が多くなっている。

Q2) あなたの現在の職業について、該当するもの 1 つ選び○をつけてください。

	回答数(人)	構成比(%)
全体	991	100.0%
大学生	357	36.0%
社会人	634	64.0%

## Q2



\*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

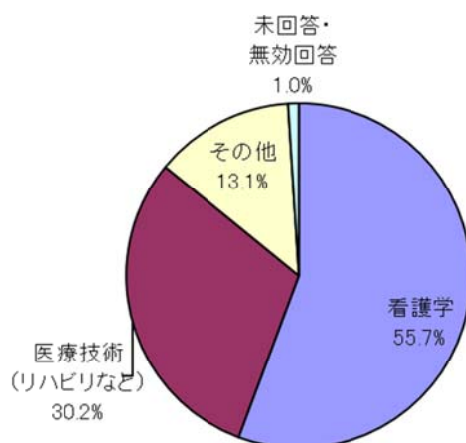
### Q3) 所属する分野

回答者の所属する分野は、「看護学」552人(55.7%)が最も多く、「医療技術(リハビリなど)」299人(30.2%)、「その他」130人(13.1%)と続いている。尚、「未回答・無効回答」として集計した未回答もしくは判別不能の回答は全体の1.0%となっている。

Q3) あなたの所属する分野について、次の中から1つ選んで○をつけてください。

	回答数(人)	構成比(%)
全体	991	100.0%
看護学	552	55.7%
医療技術(リハビリなど)	299	30.2%
その他	130	13.1%
未回答・無効回答	10	1.0%

### Q3



\*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

#### Q4) 最終学歴

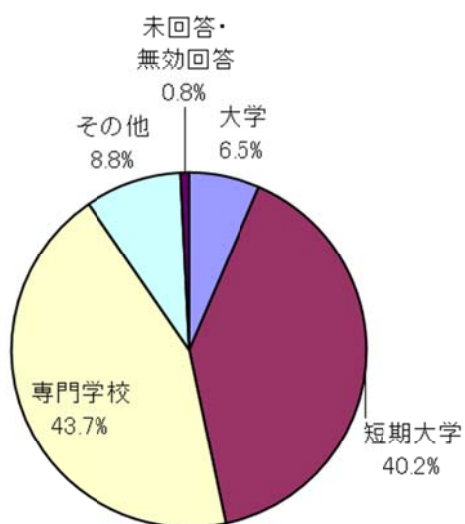
回答者の最終学歴は、「専門学校」277人(43.7%)が最も多く、「短期大学」255人(40.2%)、「その他」56人(8.8%)と続いている。尚、「未回答・無効回答」として集計した未回答もしくは判別不能の回答は全体の0.8%となっている。

\*Q2)で「社会人」を選択した回答者が回答

Q4) あなたの最終学歴について次の中から1つ選んで○をつけてください。

	回答数(人)	構成比(%)
全体	634	100.0%
大学	41	6.5%
短期大学	255	40.2%
専門学校	277	43.7%
その他	56	8.8%
未回答・無効回答	5	0.8%

#### Q4



\*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

### Q5) 実務年数

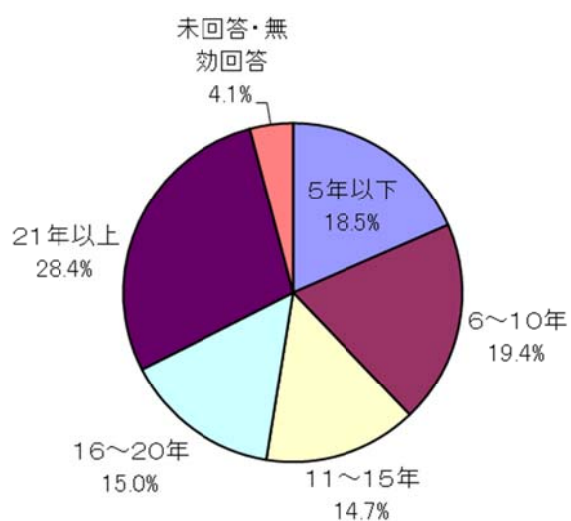
回答者の実務年数は、「21年以上」180人(28.4%)が最も多く、「6～10年」123人(19.4%)、「5年以下」117人(18.5%)と続いている。尚、「未回答・無効回答」として集計した未回答もしくは判別不能の回答は全体の4.1%となっている。

\*Q2)で「社会人」を選択した回答者が回答

Q5) あなたの实務年数について、次の中から1つ選んで○をつけてください。

	回答数(人)	構成比(%)
全体	634	100.0%
5年以下	117	18.5%
6～10年	123	19.4%
11～15年	93	14.7%
16～20年	95	15.0%
21年以上	180	28.4%
未回答・無効回答	26	4.1%

### Q5



\*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載



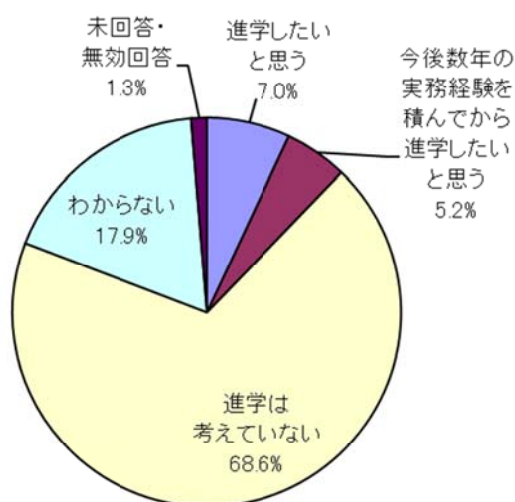
## Q6) 大学院への進学意向

回答者の大学院への進学意向は、「進学したいと思う」が69人(7.0%)、「今後数年の実務経験を積んでから進学したいと思う」が52人(5.2%)で、程度の差があるものの大学院への進学意向を持つこれらの回答者の合計が121人(12.2%)となっている。一方、「進学は考えていない」は680人(68.6%)となっており、177人(17.9%)が「わからない」と回答している。尚、「未回答・無効回答」として集計した未回答もしくは判別不能の回答は全体の1.3%となっている。

### Q6) あなたは大学院への進学についてどのようにお考えですか。

	回答数(人)	構成比(%)
全体	991	100.0%
進学したいと思う	69	7.0%
今後数年の実務経験を積んでから進学したいと思う	52	5.2%
進学は考えていない	680	68.6%
わからない	177	17.9%
未回答・無効回答	13	1.3%

### Q6



\*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

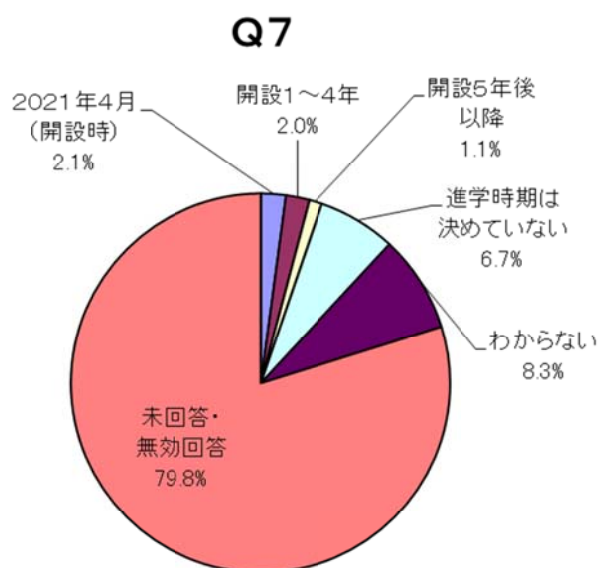
### Q7) 大学院への進学時期

回答者の大学院への進学時期は、「未回答・無効回答」を除くと、「わからない」82人(8.3%)が最も多く、「進学時期は決めていない」66人(6.7%)、「2021年4月(開設時)」21人(2.1%)と続いている。

\*Q6)で「進学したいと思う」「今後数年の実務経験を積んでから進学したいと思う」を選択した回答者が回答

### Q7) あなたは大学院への進学時期についてどのようにお考えですか。

	回答数(人)	構成比(%)
全体	991	100.0%
2021年4月(開設時)	21	2.1%
開設1～4年	20	2.0%
開設5年後以降	11	1.1%
進学時期は決めていない	66	6.7%
わからない	82	8.3%
未回答・無効回答	791	79.8%



\*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

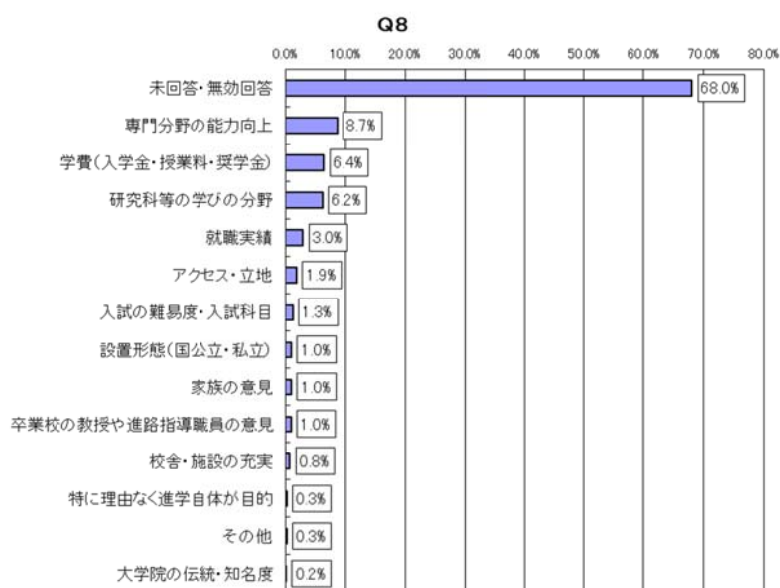
### Q8) 進学先決定時の重視要因(2つまで選択)

回答者の進学先決定時の重視要因は、「未回答・無効回答」を除くと、第1位が「専門分野の能力向上」100人(8.7%)で、第2位「学費(入学金・授業料・奨学金)」74人(6.4%)、第3位「研究科等の学びの分野」71人(6.2%)となっている。

\*Q6)で「進学したいと思う」「今後数年の実務経験を積んでから進学したいと思う」を選択した回答者が回答

### Q8) あなたは進学先を決定する際に、どのような要因を重視しますか？

	回答数(人)	構成比(%)
総計	1,151	100.0%
研究科等の学びの分野	71	6.2%
就職実績	34	3.0%
専門分野の能力向上	100	8.7%
設置形態(国公立・私立)	12	1.0%
校舎・施設の充実	9	0.8%
学費(入学金・授業料・奨学金)	74	6.4%
大学院の伝統・知名度	2	0.2%
入試の難易度・入試科目	15	1.3%
卒業校の教授や進路指導職員の見解	11	1.0%
家族の見解	12	1.0%
アクセス・立地	22	1.9%
特に理由なく進学自体が目的	3	0.3%
その他	3	0.3%
未回答・無効回答	783	68.0%



\*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

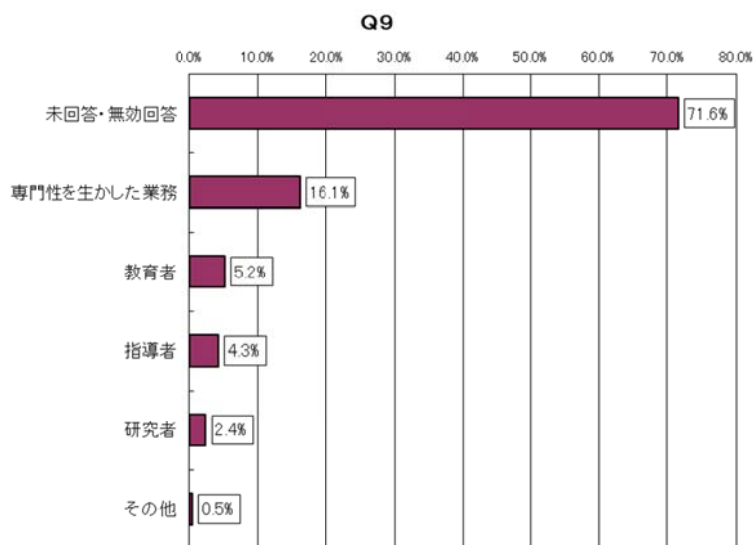
### Q9) 大学院での学びの活用(2 つまで選択)

回答者の大学院での学びの活用は、「未回答・無効回答」を除くと、第1位が「専門性を生かした業務」174人(16.1%)で、第2位「教育者」56人(5.2%)、第3位「指導者」46人(4.3%)となっている。

\*Q6)で「進学したいと思う」「今後数年の実務経験を積んでから進学したいと思う」を選択した回答者が回答

Q9) あなたは大学院修了後、どのような業務で学んだことを活かしたいですか。

	回答数(人)	構成比(%)
総計	1,080	100.0%
専門性を生かした業務	174	16.1%
指導者	46	4.3%
教育者	56	5.2%
研究者	26	2.4%
その他	5	0.5%
未回答・無効回答	773	71.6%



\*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

### Q10) 興味・関心を持った専門領域

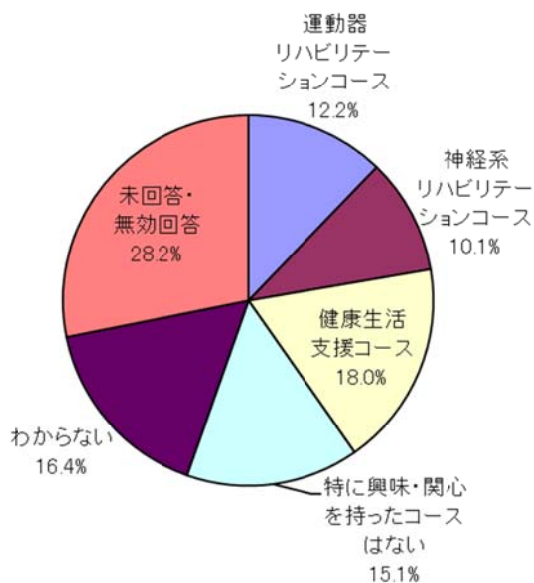
回答者の福井医療大学 大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻(仮称)の興味・関心を持った専門領域は、3つのコースについて、「健康生活支援コース」178人(18.0%)、「運動器リハビリテーションコース」121人(12.2%)、「神経系リハビリテーションコース」100人(10.1%)と続いている。一方、150人(15.1%)が「特に興味・関心を持ったコースはない」と回答し、163人(16.4%)が「わからない」と回答している。尚、「未回答・無効回答」として集計した未回答もしくは判別不能の回答は全体の28.2%となっている。

\*Q6)で「進学したいと思う」「今後数年の実務経験を積んでから進学したいと思う」を選択した回答者が回答

Q10) 福井医療大学 大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻(仮称)のどの専門領域に興味・関心を持ちましたか。

	回答数(人)	構成比(%)
全体	991	100.0%
運動器リハビリテーションコース	121	12.2%
神経系リハビリテーションコース	100	10.1%
健康生活支援コース	178	18.0%
特に興味・関心を持ったコースはない	150	15.1%
わからない	163	16.4%
未回答・無効回答	279	28.2%

### Q10



\*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

### Q11)保健医療学研究科 保健医療学専攻(仮称)への進学意向

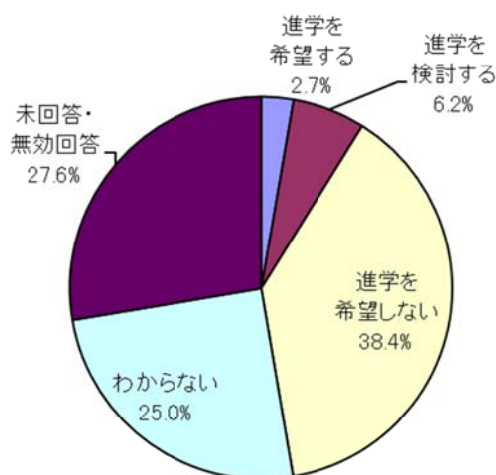
回答者の福井医療大学 大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻(仮称)への進学意向は、「進学を希望する」が27人(2.7%)、「進学を検討する」が61人(6.2%)で、何らかの進学の意向を持つこれらの回答者の合計が88人(8.9%)となり、進学意向は「進学を希望する」で入学定員(10人)の2.7倍、「進学を検討する」まで含めると8.9倍となる。一方、「進学を希望しない」は381人(38.4%)となっている。また、248人(25.0%)が「わからない」と回答しており、この層には福井医療大学 大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻(仮称)の養成する人材像や教育・研究の特色が十分に伝わっていない可能性がある。

\*Q6で「進学したいと思う」「今後数年の実務経験を積んでから進学したいと思う」を選択した回答者が回答

Q11)福井医療大学 大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻(仮称)に進学したいと思いますか。

	回答数(人)	構成比(%)
全体	991	100.0%
進学を希望する	27	2.7%
進学を検討する	61	6.2%
進学を希望しない	381	38.4%
わからない	248	25.0%
未回答・無効回答	274	27.6%

### Q11



\*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

Q12) 福井医療大学 大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻(仮称)への意見・要望

\*Q6)で「進学したいと思う」「今後数年の実務経験を積んでから進学したいと思う」を選択した回答者が回答

Q12) 福井医療大学 大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻(仮称)の設置計画に対するご意見・ご要望をお聞かせください。

Q12
病院と連携し、臨床につながる研究を期待しています。
リーフレットにカリキュラム等を載せてほしい。
説明会で詳細を知りたい。
もっと詳細な研究室のテーマなどが知りたいです。大学院への進学は考えていなくはないですが、研究室のテーマが自分のやりたいものと合致していることが大切かと思うので…。
まずは学部の定員を満たすべき。
学費ですが、職員割引の検討などありますでしょうか。
博士課程の設置を要望いたします。
設置背景が知りたいです。
職員割引制度の有無育児をしているため、時間を知りたい。
家庭内で交渉するのに、大学院入学後の1日のスケジュールや年間スケジュールなど、入学後の生活のイメージがわかると非常に助かります。(日勤業務を行った上でどのようなスケジュールになるのか?、土日祝はどうなるのか?など)
学費について、職員割引などがあるととてもうれしい!! 入学金免除など。

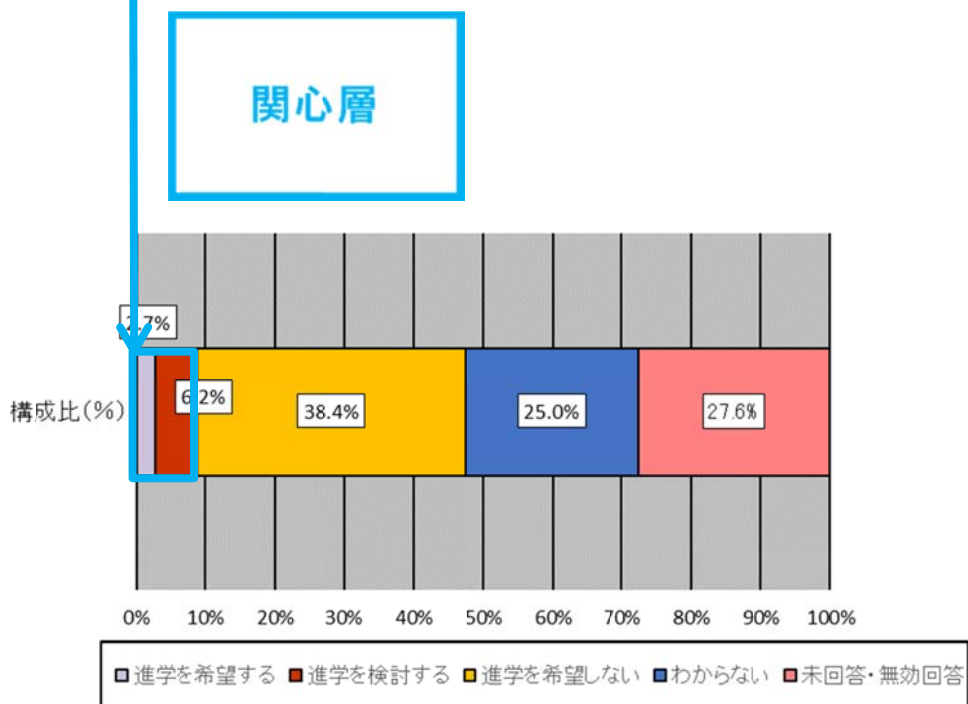
#### 4. 保健医療学研究科 保健医療学専攻(仮称)への関心分析

##### 保健医療学研究科 保健医療学専攻(仮称)の関心層

回答者の福井医療大学 大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻(仮称)への関心を分析するため、以下のように「関心層」を定義する。Q11)において、「進学を希望する」「進学を検討する」を選択した合計 88 人(8.9%)を「関心層」と定義し、次項より「関心層」の傾向を分析する。

Q11)福井医療大学 大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻(仮称)に進学したいと思いますか。

	回答数(人)	構成比(%)
全体	991	100.0%
進学を希望する	27	2.7%
進学を検討する	61	6.2%
進学を希望しない	381	38.4%
わからない	248	25.0%
未回答・無効回答	274	27.6%



\*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

\*次頁以降の集計は、各設問から未回答・無効回答を除いて集計



### Q1)性別×Q11)保健医療学研究科 保健医療学専攻(仮称)への進学意向

関心層の性別は、「男性」が43人(48.9%)、「女性」が45人(51.1%)で「男性」より「女性」がやや多くなっている。また、dif(関心層での比率－全体での比率)では、関心層と性別で「男性」を選択した層に非常に高い相関性がみられる。

### Q1)性別とQ11)福井医療大学 大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻(仮称)への進学意向との相関性

単位：(人) (%)

Q1)性別	全体		進学を希望する		進学を検討する		関心層		dif	進学を希望しない		わからない	
調査数	717	100.0%	27	100.0%	61	100.0%	88	100.0%		381	100.0%	248	100.0%
男性	166	23.2%	15	55.6%	28	45.9%	43	48.9%	25.7%	73	19.2%	50	20.2%
女性	551	76.8%	12	44.4%	33	54.1%	45	51.1%	-25.7%	308	80.8%	198	79.8%

上記は、表頭(表の上側)に「Q11)福井医療大学 大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻(仮称)への進学意向」を尋ねた質問の回答を記載。

それぞれの回答者の中での、回答数と構成比(%)を記載。

構成比(%)は表頭の「調査数」が100%となるように計算。

\*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

\*未回答・無効回答を除いて集計

\*dif=関心層での比率－全体での比率

## Q2)職業×Q11)保健医療学研究科 保健医療学専攻(仮称)への進学意向

関心層の職業は、「大学生」が22人(25.0%)、「社会人」が66人(75.0%)で「大学生」より「社会人」が多くなっている。また、dif(関心層での比率－全体での比率)では、関心層と職業で「社会人」を選択した層に高い相関性がみられる。

## Q2)職業とQ11)福井医療大学 大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻(仮称)への進学意向との相関性

単位：(人) (%)

Q2)職業	全体		進学を希望する		進学を検討する		関心層		dif	進学を希望しない		わからない	
調査数	717	100.0%	27	100.0%	61	100.0%	88	100.0%		381	100.0%	248	100.0%
大学生	268	37.4%	12	44.4%	10	16.4%	22	25.0%	-12.4%	147	38.6%	99	39.9%
社会人	449	62.6%	15	55.6%	51	83.6%	66	75.0%	12.4%	234	61.4%	149	60.1%

上記は、表頭(表の上側)に「Q11)福井医療大学 大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻(仮称)への進学意向」を尋ねた質問の回答を記載。

それぞれの回答者の中での、回答数と構成比(%)を記載。

構成比(%)は表頭の「調査数」が100%となるように計算。

\*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

\*未回答・無効回答を除いて集計

\*dif=関心層での比率－全体での比率

### Q3) 所属分野×Q11) 保健医療学研究科 保健医療学専攻(仮称)への進学意向

関心層の所属分野は、「医療技術(リハビリなど)」48人(55.2%)が最も多く、「看護学」35人(40.2%)、「その他」4人(4.6%)と続いている。また、dif(関心層での比率－全体での比率)では、関心層と所属分野で「医療技術(リハビリなど)」を選択した層に非常に高い相関性がみられる。

### Q3) 所属分野と Q11) 福井医療大学 大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻(仮称)への進学意向との相関性

単位：(人) (%)

Q3)分野	全体		進学を希望する		進学を検討する		関心層		dif	進学を希望しない		わからない	
調査数	712	100.0%	27	100.0%	60	100.0%	87	100.0%		379	100.0%	246	100.0%
看護学	395	55.5%	7	25.9%	28	46.7%	35	40.2%	-15.2%	215	56.7%	145	58.9%
医療技術(リハビリなど)	233	32.7%	19	70.4%	29	48.3%	48	55.2%	22.4%	112	29.6%	73	29.7%
その他	84	11.8%	1	3.7%	3	5.0%	4	4.6%	-7.2%	52	13.7%	28	11.4%

上記は、表頭(表の上側)に「Q11) 福井医療大学 大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻(仮称)への進学意向」を尋ねた質問の回答を記載。

それぞれの回答者の中での、回答数と構成比(%)を記載。

構成比(%)は表頭の「調査数」が100%となるように計算。

\*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

\*未回答・無効回答を除いて集計

\*dif=関心層での比率－全体での比率

#### Q4)最終学歴×Q11)保健医療学研究科 保健医療学専攻(仮称)への進学意向

Q2)で社会人と回答した関心層の最終学歴は、「短期大学」35人(53.8%)が最も多く、「専門学校」21人(32.3%)、「大学」5人(7.7%)と続いている。また、dif(関心層での比率－全体での比率)では、関心層と最終学歴で「短期大学」を選択した層に高い相関性がみられる。

#### Q4)最終学歴とQ11)福井医療大学 大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻(仮称)への進学意向との相関性

単位：(人) (%)

Q4)最終学歴	全体		進学を希望する		進学を検討する		関心層		dif	進学を希望しない		わからない	
調査数	455	100.0%	15	100.0%	50	100.0%	65	100.0%		236	100.0%	154	100.0%
大学	40	8.8%	0	0.0%	5	10.0%	5	7.7%	-1.1%	20	8.5%	15	9.7%
短期大学	190	41.8%	8	53.3%	27	54.0%	35	53.8%	12.1%	88	37.3%	67	43.5%
専門学校	188	41.3%	6	40.0%	15	30.0%	21	32.3%	-9.0%	109	46.2%	58	37.7%
その他	37	8.1%	1	6.7%	3	6.0%	4	6.2%	-2.0%	19	8.1%	14	9.1%

上記は、表頭(表の上側)に「Q11)福井医療大学 大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻(仮称)への進学意向」を尋ねた質問の回答を記載。

それぞれの回答者の中での、回答数と構成比(%)を記載。

構成比(%)は表頭の「調査数」が100%となるように計算。

\*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

\*未回答・無効回答を除いて集計

\*dif=関心層での比率－全体での比率

#### Q5)実務年数×Q11)保健医療学研究科 保健医療学専攻(仮称)への進学意向

Q2)で社会人と回答した関心層の実務年齢は、「6～10年」21人(32.8%)が最も多く、「5年以下」18人(28.1%)、「11～15年」11人(17.2%)と続いている。また、dif(関心層での比率－全体での比率)では、関心層と実務年齢で「6～10年」を選択した層に高い相関性がみられ、「5年以下」を選択した層に一定の相関性がみられる。

#### Q5)実務年数とQ11)福井医療大学 大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻(仮称)への進学意向との相関性

単位：(人) (%)

Q5)実務年数	全体		進学を希望する		進学を検討する		関心層		dif	進学を希望しない		わからない	
調査数	431	100.0%	15	100.0%	49	100.0%	64	100.0%		223	100.0%	144	100.0%
5年以下	88	20.4%	2	13.3%	16	32.7%	18	28.1%	-7.7%	34	15.2%	36	25.0%
6～10年	95	22.0%	5	33.3%	16	32.7%	21	32.8%	10.8%	50	22.4%	24	16.7%
11～15年	69	16.0%	5	33.3%	6	12.2%	11	17.2%	-1.2%	42	18.8%	16	11.1%
16～20年	71	16.5%	2	13.3%	7	14.3%	9	14.1%	-2.4%	41	18.4%	21	14.6%
21年以上	108	25.1%	1	6.7%	4	8.2%	5	7.8%	-17.2%	56	25.1%	47	32.6%

上記は、表頭(表の上側)に「Q11)福井医療大学 大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻(仮称)への進学意向」を尋ねた質問の回答を記載。

それぞれの回答者の中での、回答数と構成比(%)を記載。

構成比(%)は表頭の「調査数」が100%となるように計算。

\*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

\*未回答・無効回答を除いて集計

\*dif=関心層での比率－全体での比率

#### Q6) 大学院進学意向 × Q11) 保健医療学研究科 保健医療学専攻(仮称)への進学意向

関心層の大学院進学意向は、「進学したいと思う」が44人(50.6%)、「今後数年の実務経験を積んでから進学したいと思う」が18人(20.7%)で、何らかの進学の意向を持つこれらの回答者の合計が62人(71.3%)となっている。また、dif(関心層での比率－全体での比率)では、関心層と大学院進学意向で「進学したいと思う」を選択した層に非常に高い相関性がみられ、「今後数年の実務経験を積んでから進学したいと思う」を選択した層に高い相関性がみられる。

#### Q6) 大学院進学意向と Q11) 福井医療大学 大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻(仮称)への進学意向との相関性

単位：(人) (%)

Q6)大学院進学意向	全体		進学を希望する		進学を検討する		関心層		dif	進学を希望しない		わからない	
調査数	714	100.0%	26	100.0%	61	100.0%	87	100.0%		379	100.0%	248	100.0%
進学したいと思う	66	9.2%	23	88.5%	21	34.4%	44	50.6%	41.3%	10	2.6%	12	4.8%
今後数年の実務経験を積んでから進学したいと思う	48	6.7%	1	3.8%	17	27.9%	18	20.7%	14.0%	8	2.1%	22	8.9%
進学は考えていない	471	66.0%	1	3.8%	16	26.2%	17	19.5%	-46.4%	340	89.7%	114	46.0%
わからない	129	18.1%	1	3.8%	7	11.5%	8	9.2%	-8.9%	21	5.5%	100	40.3%

上記は、表頭(表の上側)に「Q11) 福井医療大学 大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻(仮称)への進学意向」を尋ねた質問の回答を記載。

それぞれの回答者の中での、回答数と構成比(%)を記載。

構成比(%)は表頭の「調査数」が100%となるように計算。

\*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

\*未回答・無効回答を除いて集計

\*dif=関心層での比率－全体での比率

### Q7) 進学希望時期×Q11) 保健医療学研究科 保健医療学専攻(仮称)への進学意向

関心層の進学希望時期では、「進学時期は決めていない」23人(33.8%)が最も多く、「2021年4月(開設時)」17人(25.0%)、「開設1～4年」16人(23.5%)と続いている。また、dif(関心層での比率－全体での比率)では、関心層と進学希望時期で「2021年4月(開設時)」「開設1～4年」を選択した層に高い相関性がみられる。

### Q7) 進学希望時期と Q11) 福井医療大学 大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻(仮称)への進学意向との相関性

単位：(人) (%)

Q7)進学時期	全体		進学を希望する		進学を検討する		関心層		dif	進学を希望しない		わからない	
調査数	186	100.0%	25	100.0%	43	100.0%	68	100.0%		42	100.0%	76	100.0%
2021年4月(開設時)	21	11.3%	13	52.0%	4	9.3%	17	25.0%	13.7%	3	7.1%	1	1.3%
開設1～4年	20	10.8%	9	36.0%	7	16.3%	16	23.5%	12.8%	4	9.5%	0	0.0%
開設5年後以降	10	5.4%	1	4.0%	2	4.7%	3	4.4%	-1.0%	2	4.8%	5	6.6%
進学時期は決めていない	61	32.8%	2	8.0%	21	48.8%	23	33.8%	1.0%	20	47.6%	18	23.7%
わからない	74	39.8%	0	0.0%	9	20.9%	9	13.2%	-26.5%	13	31.0%	52	68.4%

上記は、表頭(表の上側)に「Q11) 福井医療大学 大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻(仮称)への進学意向」を尋ねた質問の回答を記載。

それぞれの回答者の中での、回答数と構成比(%)を記載。

構成比(%)は表頭の「調査数」が100%となるように計算。

\*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

\*未回答・無効回答を除いて集計

\*dif=関心層での比率－全体での比率

**Q8) 進学先決定時の重視要因×Q11) 保健医療学研究科 保健医療学専攻(仮称)への進学意向との相関性**

関心層の進学先決定時の重視要因は、「専門分野の能力向上」40人(32.5%)が最も多く、「学費(入学金・授業料・奨学金)」27人(22.0%)、「研究科等の学びの分野」24人(19.5%)と続いている。また、dif(関心層での比率－全体での比率)では、関心層と進学先決定時の重視要因で「専門分野の能力向上」を選択した層に一定の相関性がみられ、「学費(入学金・授業料・奨学金)」を選択した層にやや相関性がみられる。

**Q8) 進学先決定時の重視要因と Q11) 福井医療大学 大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻(仮称)への進学意向との相関性**

単位：(人) (%)

Q8)進学先決定時の重視要因	全体		進学を希望する		進学を検討する		関心層		dif	進学を希望しない		わからない	
調査数	349	100.0%	39	100.0%	84	100.0%	123	100.0%		92	100.0%	134	100.0%
研究科等の学びの分野	68	19.5%	7	17.9%	17	20.2%	24	19.5%	0.0%	15	16.3%	29	21.6%
就職実績	32	9.2%	0	0.0%	5	6.0%	5	4.1%	-5.1%	15	16.3%	12	9.0%
専門分野の能力向上	96	27.5%	14	35.9%	26	31.0%	40	32.5%	5.0%	26	28.3%	30	22.4%
設置形態(国公立・私立)	11	3.2%	1	2.6%	1	1.2%	2	1.6%	-1.5%	6	6.5%	3	2.2%
校舎・施設の充実	9	2.6%	0	0.0%	2	2.4%	2	1.6%	-1.0%	3	3.3%	4	3.0%
学費(入学金・授業料・奨学金)	71	20.3%	9	23.1%	18	21.4%	27	22.0%	1.6%	15	16.3%	29	21.6%
大学院の伝統・知名度	2	0.6%	0	0.0%	1	1.2%	1	0.8%	0.2%	1	1.1%	0	0.0%
入試の難易度・入試科目	12	3.4%	1	2.6%	4	4.8%	5	4.1%	0.6%	3	3.3%	4	3.0%
卒業校の教授や進路指導職員の意見	10	2.9%	0	0.0%	3	3.6%	3	2.4%	-0.4%	2	2.2%	5	3.7%
家族の意見	11	3.2%	3	7.7%	1	1.2%	4	3.3%	0.1%	3	3.3%	4	3.0%
アクセス・立地	21	6.0%	4	10.3%	4	4.8%	8	6.5%	0.5%	2	2.2%	11	8.2%
特に理由なく進学自体が目的	3	0.9%	0	0.0%	1	1.2%	1	0.8%	0.0%	0	0.0%	2	1.5%
その他	3	0.9%	0	0.0%	1	1.2%	1	0.8%	0.0%	1	1.1%	1	0.7%

上記は、表頭(表の上側)に「Q11) 福井医療大学 大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻(仮称)への進学意向」を尋ねた質問の回答を記載。

それぞれの回答者の中での、回答数と構成比(%)を記載。

構成比(%)は表頭の「調査数」が100%となるように計算。

\*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

\*未回答・無効回答を除いて集計

\*dif=関心層での比率－全体での比率



**Q9) 修了後の活用業務×Q11) 保健医療学研究科 保健医療学専攻(仮称)への進学意向との  
相関性**

関心層の修了後の活用業務は、「専門性を生かした業務」57人(54.3%)が最も多く、「指導者」19人(18.1%)、「教育者」18人(17.1%)と続いている。また、dif(関心層での比率－全体での比率)では、関心層と修了後の活用業務で「指導者」「研究者」を選択した層にやや相関性がみられ、「教育者」を選択した層にわずかな相関性がみられる。

**Q9) 修了後の活用業務と Q11) 福井医療大学 大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻(仮称)  
への進学意向との相関性**

単位：(人) (%)

Q9)修了後活用業務	全体		進学を希望する		進学を検討する		関心層		dif	進学を希望しない		わからない	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率		人数	比率	人数	比率
調査数	294	100.0%	37	100.0%	68	100.0%	105	100.0%		75	100.0%	114	100.0%
専門性を生かした業務	170	57.8%	17	45.9%	40	58.8%	57	54.3%	-3.5%	48	64.0%	65	57.0%
指導者	44	15.0%	9	24.3%	10	14.7%	19	18.1%	3.1%	8	10.7%	17	14.9%
教育者	49	16.7%	7	18.9%	11	16.2%	18	17.1%	0.5%	13	17.3%	18	15.8%
研究者	26	8.8%	4	10.8%	7	10.3%	11	10.5%	1.6%	5	6.7%	10	8.8%
その他	5	1.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	-1.7%	1	1.3%	4	3.5%

上記は、表頭(表の上側)に「Q11) 福井医療大学 大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻(仮称)への進学意向」を尋ねた質問の回答を記載。

それぞれの回答者の中での、回答数と構成比(%)を記載。

構成比(%)は表頭の「調査数」が100%となるように計算。

\*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

\*未回答・無効回答を除いて集計

\*dif=関心層での比率－全体での比率

**Q10)興味・関心のある専門領域×Q11)保健医療学研究科 保健医療学専攻(仮称)への進学意向との相関性**

関心層の興味・関心のある専門領域では、「神経系リハビリテーションコース」「健康生活支援コース」27人(30.7%)が最も多く、「運動器リハビリテーションコース」26人(29.5%)と続いている。また、dif(関心層での比率－全体での比率)では、関心層と興味・関心のある専門領域で「神経系リハビリテーションコース」を選択した層に非常に高い相関性がみられ、「運動器リハビリテーションコース」を選択した層に高い相関性がみられる。

**Q10)興味・関心のある専門領域と Q11)福井医療大学 大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻(仮称)への進学意向との相関性**

単位：(人) (%)

Q10)興味・関心のある専門領域	全体		進学を希望する		進学を検討する		関心層		dif	進学を希望しない		わからない	
調査数	705	100.0%	27	100.0%	61	100.0%	88	100.0%		373	100.0%	244	100.0%
運動器リハビリテーションコース	120	17.0%	8	29.6%	18	29.5%	26	29.5%	12.5%	57	15.3%	37	15.2%
神経系リハビリテーションコース	100	14.2%	10	37.0%	17	27.9%	27	30.7%	16.5%	42	11.3%	31	12.7%
健康生活支援コース	172	24.4%	8	29.6%	19	31.1%	27	30.7%	6.3%	75	20.1%	70	28.7%
特に興味・関心を持ったコースはない	150	21.3%	0	0.0%	1	1.6%	1	1.1%	-20.1%	128	34.3%	21	8.6%
わからない	163	23.1%	1	3.7%	6	9.8%	7	8.0%	-15.2%	71	19.0%	85	34.8%

上記は、表頭(表の上側)に「Q11)福井医療大学 大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻(仮称)への進学意向」を尋ねた質問の回答を記載。

それぞれの回答者の中での、回答数と構成比(%)を記載。

構成比(%)は表頭の「調査数」が100%となるように計算。

\*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

\*未回答・無効回答を除いて集計

\*dif=関心層での比率－全体での比率

## 5. 補記

### アンケート説明文 1/2

■ 学納金について  
初年度総額 800,000円（入学金 200,000円 授業料等 600,000円）次年度授業料等 600,000円

■ 参考  
近県における同系統分野の大学院  
初年度総額 国立 / 817,800円  
公立 / 695,200円～956,800円  
私立 / 600,000円～945,000円

■ 設置予定地  
福井県福井市江上町55-13-1



■ 交通アクセス



■ お問い合わせ先 【福井医大大学院開設準備室】 〒910-3190 福井県福井市江上町55-13-1  
TEL : 0776-59-2200 FAX : 0776-59-2205 E-mail : fcm-soumu@kki.biglobe.ne.jp

福井医療大学院  
保健医療学研究科  
保健医療学専攻（仮称）  
2021年4月開設予定



 福井医療大学

※ 構想図等は計画中のものであり、今後変更になる可能性があります。

## 保健医療学研究科について

本学は、保健医療学を「あらゆるライフサイクル、ライフステージ、場にある人々の生涯を通じての健康管理を補助し、疾病時には早期の健康回復を促す為の最適な援助方法を研究する学問」だと捉え、そこには、リハビリテーション、看護といった専門的知識を深めていくための研究に加え、それらを有機的に統合するための能力向上や組織運営に関する研究も含まれます。

福井医科大学大学院では、保健医療学の定義に基づき、地域への健康政策や地域住民個々の健康増進、疾病・障害予防、健康回復、並びに保健医療サービス提供者の教育や生産性向上に関する教育研究を行うことで、人々の健康を探究することを目指します。

具体的実現のため、「運動器リハビリテーションコース」、「神経系リハビリテーションコース」、「健康生活支援コース」の3つのコースを設置する予定です。

## ● 各コースの養成する人材像



### ■ 運動器リハビリテーションコース

病院、施設、地域などの臨床現場、競技スポーツや障がい者スポーツなどのスポーツ現場において、運動器障害をもつ対象者に対し、病状に基づいた適切な評価やリハビリテーションを行い、専門性を活かした上での支援を実践できる人材、さらに運動器、スポーツ医学に関する研究課題を探究し続け、各々の領域でのリーダー的役割を担える人材を養成します。



### ■ 神経系リハビリテーションコース

神経系疾患を科学的に理解し、研究課題を探究し続け、さらに病院、施設、地域などの臨床現場において、各々の専門性を発揮することと、病態に基づいた適切な評価や治療に結びつけることのできるリーダー的役割を担える人材を養成します。さらに多職種の多面的観点を支援に活かしながら実践、マネジメントし、社会情勢の変化や実践に基づく生活支援の研究課題を探究しつづけ、地域生活の維持に貢献できる人材を養成します。



### ■ 健康生活支援コース

あらゆるライフサイクル、ライフステージ、場における人々が健康な生活を維持あるいは回復し新しい生活を構築していくための支援方法を、それぞれの専門性の中にあるプロフェッショナルズを発揮し、多職種の多面的観点を支援に活かしながら実践できる人材を養成します。さらに社会情勢の変化や実践に基づく健康生活支援の研究課題を探究しつづけ、健康生活の向上に貢献できる人材を養成します。

## ● 入学定員(予定)

名称	入学定員	収容定員
保健医療学研究科 保健医療学専攻	10名	20名

## ● 想定される就職分野

地方自治体 保健・医療・福祉施設 教育機関







福井医療大学 御中

新研究科設置計画に係る  
ニーズ調査報告書(事業所編)

丸善雄松堂株式会社  
Research & Innovation 本部  
大学経営コンサルティング部

 **MARUZEN-YUSHODO**

---

## 目次

1. 調査概要	2
2. 調査・分析結果の要旨	3
3. 全体集計結果	6
4. 保健医療学研究科 保健医療学専攻(仮称)への関心分析	18
5. 採用需要推計	27
6. 補記	29



## 1. 調査概要

### (1) 調査目的

福井医療大学 大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻(仮称)設置計画検討のため、本アンケート調査により事業所の人材需要等を把握し、設置計画の基礎資料とすることを目的とする

### (2) 調査対象

設置が検討される新研究科の専攻分野から選定した修了者の就職先として考えられる事業所

### (3) 実施時期

2019年12月16日～2019年12月27日

### (4) 回収状況

本調査では300事業所を対象にアンケート調査票を配布し、108件のアンケートを回収することが出来た(回収率36.0%)

### (5) 調査方法

調査票による定量調査(アンケート調査)

### (6) 利用調査票

添付アンケート調査票参照

## 2. 調査・分析結果の要旨

### (1) 調査結果の要旨

#### ① 事業所の種別

回答事業所の種別は、「病院、診療所」84 事業所 (77. 8%) が最も多く、「福祉施設」17 事業所 (15. 7%)、「地方自治体」4 事業所 (3. 7%) と続いている。

#### ② 事業所の所在地

回答事業所の所在地は、「福井県」50 事業所 (46. 3%) が最も多く、4 割以上となっており、「富山県」16 事業所 (14. 8%)、「滋賀県」15 事業所 (13. 9%) と続いている。

#### ③ 事業所の規模

回答事業所の規模は、「100-499 人」56 事業所 (51. 9%) が最も多く、5 割以上となっており、「50-99 人」18 事業所 (16. 7%)、「50 人未満」16 事業所 (14. 8%) と続いている。

#### ④ 過去 3 年間の大学院修了者採用人数

回答事業所の過去 3 年間の大学院修了者採用人数は下記のとおり。

2017年度		2018年度		2019年度	
事業者数(事業所)	採用人数(人)	事業者数(事業所)	採用人数(人)	事業者数(事業所)	採用人数(人)
合計	10	合計	11	合計	9
	23		23		22

#### ⑤ 人材充足状況

回答事業所の人材充足状況は、「不足している」が 29 事業所 (26. 9%)、「やや不足している」が 35 事業所 (32. 4%) で、これらの合計が 64 事業所 (59. 3%) となり、程度の差はあるものの 6 割近くの事業所で人材が不足していると回答している。一方、「充足している」は 9 事業所 (8. 3%)、「ある程度充足している」は 31 事業所 (28. 7%) となっている。

#### ⑥ 人材採用時の重視点

回答事業所の人材採用時の重視点は、「コミュニケーション能力」68 事業所 (33. 0%) が最も多く、「チームで働く力」61 事業所 (29. 6%)、「専攻分野の基礎学力」20 事業所 (9. 7%) と続いている。また、「語学力」「国際感覚(広い視野・価値観)」0 事業所 (0. 0%) や「論理的思考力」2 事業所 (1. 0%) についてはあまり重視されていない。

#### ⑦保健医療学研究科 保健医療学専攻(仮称)の設置の必要性

設置の必要性について、「必要性を感じる」が20事業所(18.5%)、「ある程度の必要性を感じる」が37事業所(34.3%)で、これらの合計が57事業所(52.8%)と、設置について5割以上の事業所が何らかの必要性を感じている。一方、「あまり必要性を感じない」は17事業所(15.7%)、「必要性を感じない」は7事業所(6.5%)でこれらの合計は24事業所(22.2%)となっている。

#### ⑧保健医療学研究科 保健医療学専攻(仮称)修了者の採用意向・人数

修了者の採用意向については、「採用したい」が16事業所(14.8%)、「採用を検討したい」が25事業所(23.1%)で、これらの合計が41事業所(37.9%)となり、4割近くの事業所が保健医療学研究科 保健医療学専攻(仮称)卒業生に対する何らかの採用意向を持っていることがわかる。

修了者の採用意向人数は、「採用したい」が16事業所(内4事業所は未回答)19人、「採用を検討したい」が25事業所(内5事業所は未回答)33人となっており、これらの合計は人数を回答した事業所のみで52人となっている。

#### ⑨採用したい大学院修了者の専攻分野

採用したい大学院修了者のコースについては、「健康生活支援コース」22事業所(36.1%)、「運動器リハビリテーションコース」20事業所(32.8%)、「神経系リハビリテーションコース」16事業所(26.2%)と続いている。

#### ⑩大学院修了者への期待

大学院修了者への期待については、「専門性を活かした業務」33事業所(54.1%)、「指導者的役割」15事業所(24.6%)、「教育的役割」9事業所(14.8%)と続いている。一方、「研究的役割」は3事業所(4.9%)に留まっている。

## (2) 分析結果の要旨

調査結果に基づく、福井医療大学 大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻(仮称)修了者の採用意向人数は、「採用したい」が16事業所(内4事業所は未回答)19人、「採用を検討したい」が25事業所(内5事業所は未回答)33人となっており、これらの合計は人数を回答した事業所のみで52人となっている(P14)。この数値は、福井医療大学 大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻(仮称)の入学定員(10人)の1.9倍、「採用を検討したい」まで含めると5.2倍となることから、福井医療大学 大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻(仮称)修了者に対する一定の採用需要があるといえる。

加えて、回答事業所の過去3年間の大学院修了者採用人数は、2017年度10事業所23人、2018年度11事業所23人、2019年度9事業所22人でいずれも20人以上を採用していることがわかる(P9)。このことから、回答事業所全体としても一定の継続的な大学院修了者の採用需要があることが窺われる。

人材採用について、「Q6)人材採用時の重視点」では、多くの事業所が「コミュニケーション能力」「チームで働く力」と回答している(P11)。また、「Q10)大学院修了者への期待」では多くの事業所が「専門性を活かした業務」「指導者的役割」と回答している(P16)。従って、自学の教育理念や目的に基づき、上記のような重視点や期待を反映した優秀な人材を輩出していくことで、福井医療大学 大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻(仮称)の評価を高め、就職先となる事業所等との連携を強化していくことが重要な成功要因になると考えられる。

「Q8)保健医療学研究科 保健医療学専攻(仮称)修了者の採用意向」では、回答した事業所のうち約半数が「わからない」と答えている(P13)。また、「Q11)保健医療学研究科 保健医療学専攻(仮称)に対する意見・要望」では、「どのような職種の資格者が育成されるのかわからない」や「看護と認識があるが主にリハビリとの印象」というコメントがみられた(P17)。これらから、福井医療大学 大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻(仮称)の養成する人材像や修了後の進路について現状の説明では認知できていない層が窺われる。従って、就職先となる施設・事業所に向けて、修了生の想定される進路との関係性も含めた研究科の特徴について具体的に説明していく広報活動も必要であると考えられる。

### 3. 全体集計結果

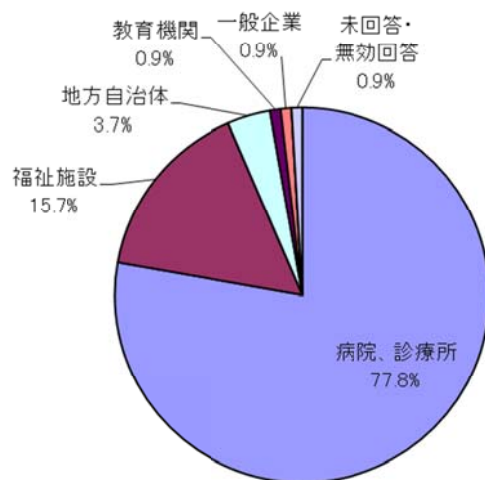
#### Q1) 事業所の種別

回答事業所の種別は、「病院、診療所」84 事業所 (77.8%) が最も多く、「福祉施設」17 事業所 (15.7%)、「地方自治体」4 事業所 (3.7%) と続いている。

Q1) 貴事業所の主たる種別はどちらですか。

	回答数(事業所)	構成比(%)
全体	108	100.0%
病院、診療所	84	77.8%
福祉施設	17	15.7%
保健所	0	0.0%
地方自治体	4	3.7%
教育機関	1	0.9%
一般企業	1	0.9%
その他	0	0.0%
未回答・無効回答	1	0.9%

Q1



\*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

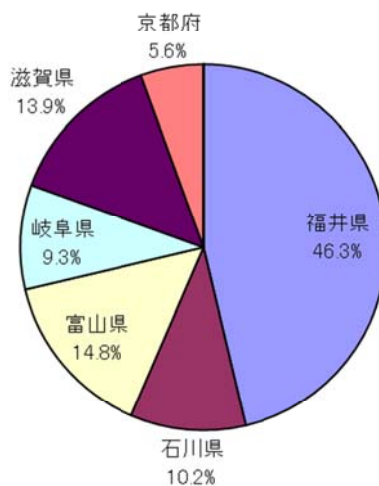
## Q2) 事業所の所在地

回答事業所の所在地は、「福井県」50 事業所 (46.3%) が最も多く、4 割以上となっており、「富山県」16 事業所 (14.8%)、「滋賀県」15 事業所 (13.9%) と続いている。

### Q2) 貴事業所の主たる所在地はどちらですか。

	回答数(事業所)	構成比(%)
全体	108	100.0%
福井県	50	46.3%
石川県	11	10.2%
富山県	16	14.8%
岐阜県	10	9.3%
滋賀県	15	13.9%
京都府	6	5.6%
その他	0	0.0%
未回答・無効回答	0	0.0%

## Q2



\*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

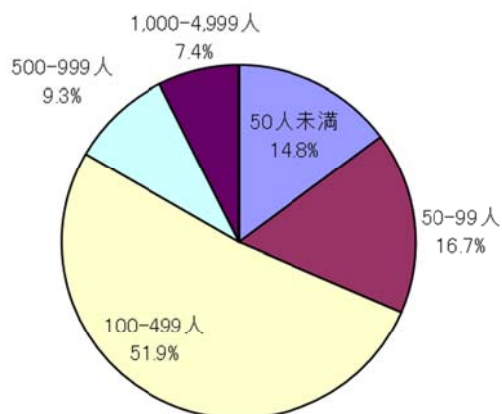
### Q3) 事業所の規模

回答事業所の規模は、「100-499人」56事業所(51.9%)が最も多く、5割以上となっており、「50-99人」18事業所(16.7%)、「50人未満」16事業所(14.8%)と続いている。

Q3) 貴事業所の従業員数(正規社員)について、該当するもの1つに○をつけてください。

	回答数(事業所)	構成比(%)
全体	108	100.0%
50人未満	16	14.8%
50-99人	18	16.7%
100-499人	56	51.9%
500-999人	10	9.3%
1,000-4,999人	8	7.4%
5,000人以上	0	0.0%
未回答・無効回答	0	0.0%

### Q3



\*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

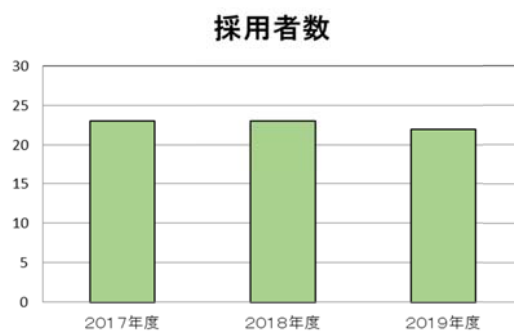
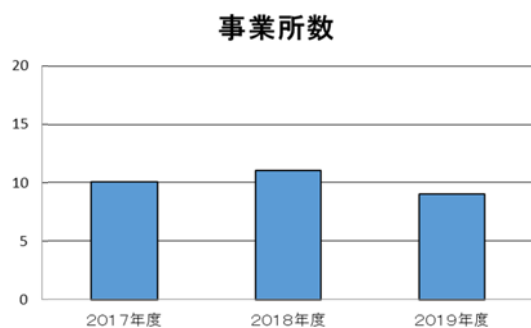
**Q4) 過去3年間の大学院卒業者採用人数**

回答事業所の過去3年間の大学院卒業者採用人数は、2017年度10事業所23人、2018年度11事業所23人、2019年度9事業所22人で、2017年度から2019年度でいずれも20人以上を採用していることがわかる。

**Q4) 貴事業所では、大学院卒業者を過去3年間で何人採用されましたか。**

\* 詳細がご不明な場合は概数をご記入ください。

2017年度		2018年度		2019年度				
事業所数(事業所)	採用人数(人)	事業所数(事業所)	採用人数(人)	事業所数(事業所)	採用人数(人)			
合計	10	23	合計	11	23	合計	9	22



\*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

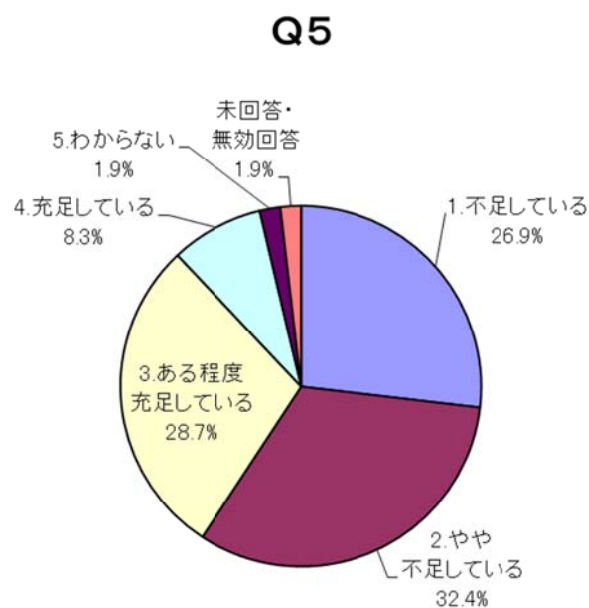


#### Q5) 人材充足状況

回答事業所の人材充足状況は、「不足している」が29事業所(26.9%)、「やや不足している」が35事業所(32.4%)で、これらの合計が64事業所(59.3%)となり、程度の差はあるものの6割近くの事業所で人材が不足していると回答している。一方、「充足している」は9事業所(8.3%)、「ある程度充足している」は31事業所(28.7%)となっている。

Q5) 貴事業所では、過去3年間で採用された職種の充足状況についてどのようにお考えですか。

	回答数(事業所)	構成比(%)
全体	108	100.0%
1.不足している	29	26.9%
2.やや不足している	35	32.4%
3.ある程度充足している	31	28.7%
4.充足している	9	8.3%
5.わからない	2	1.9%
未回答・無効回答	2	1.9%



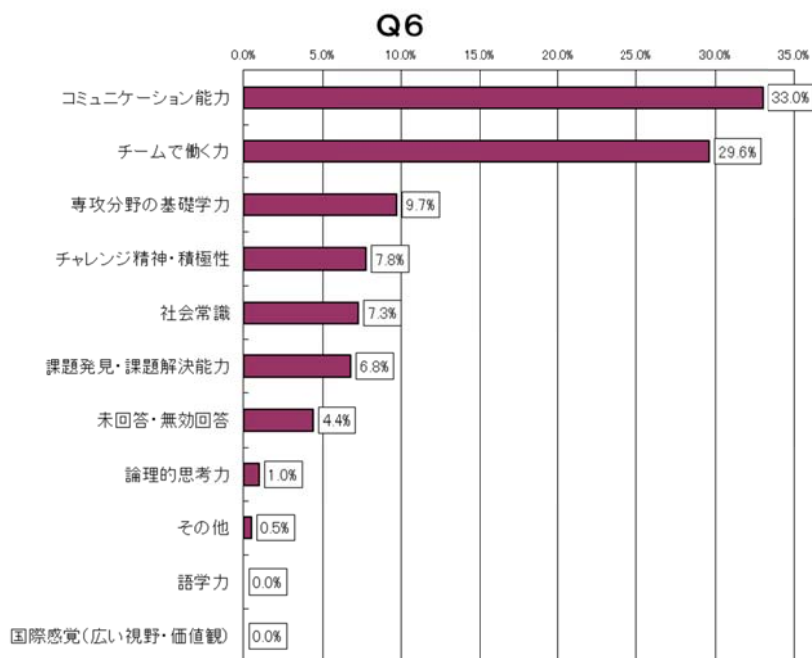
\*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

**Q6) 人材採用時の重視点 \*複数選択可(2つまで)**

回答事業所の人材採用時の重視点は、「コミュニケーション能力」68事業所(33.0%)が最も多く、「チームで働く力」61事業所(29.6%)、「専攻分野の基礎学力」20事業所(9.7%)と続いており、「語学力」「国際感覚(広い視野・価値観)」0事業所(0.0%)や「論理的思考力」2事業所(1.0%)についてはあまり重視されていない。

**Q6) 貴事業所では人材採用の際、どのような点を重視されていますか。**

	回答数(事業所)	構成比(%)
全体	206	100.0%
コミュニケーション能力	68	33.0%
語学力	0	0.0%
課題発見・課題解決能力	14	6.8%
チームで働く力	61	29.6%
チャレンジ精神・積極性	16	7.8%
国際感覚(広い視野・価値観)	0	0.0%
論理的思考力	2	1.0%
専攻分野の基礎学力	20	9.7%
社会常識	15	7.3%
その他	1	0.5%
未回答・無効回答	9	4.4%



\*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

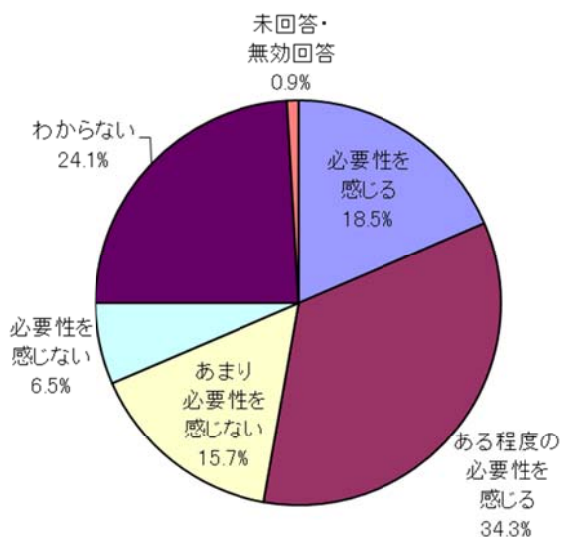
**Q7) 保健医療学研究科 保健医療学専攻(仮称)の設置の必要性**

保険医療学研究科 保健医療学専攻(仮称)の設置の必要性について、「必要性を感じる」が20事業所(18.5%)、「ある程度の必要性を感じる」が37事業所(34.3%)で、これらの合計が57事業所(52.8%)と、設置について5割以上の事業所が何らかの必要性を感じている。一方、「あまり必要性を感じない」は17事業所(15.7%)、「必要性を感じない」は7事業所(6.5%)でこれらの合計は24事業所(22.2%)となっている。

**Q7) 福井医療大学 大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻(仮称)についてどの程度必要性を感じますか。**

	回答数(事業所)	構成比(%)
全体	108	100.0%
必要性を感じる	20	18.5%
ある程度の必要性を感じる	37	34.3%
あまり必要性を感じない	17	15.7%
必要性を感じない	7	6.5%
わからない	26	24.1%
未回答・無効回答	1	0.9%

**Q7**



\*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

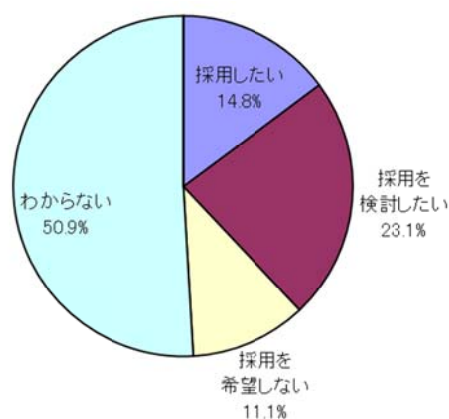
#### Q8)-1 保健医療学研究科 保健医療学専攻(仮称)修了者の採用意向

回答事業所の保健医療学研究科 保健医療学専攻(仮称)修了者の採用意向については、「採用したい」が16事業所(14.8%)、「採用を検討したい」が25事業所(23.1%)で、これらの合計が41事業所(37.9%)となり、4割近くの事業所が保健医療学研究科 保健医療学専攻(仮称)卒業生に対する何らかの採用意向を持っていることがわかる。一方、「採用を希望しない」は12事業所(11.1%)で、55事業所(50.9%)が「わからない」と回答している。

Q8) 福井医療大学 大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻(仮称)の修了者の採用について、どのようにお考えですか。

	回答数(事業所)	構成比(%)
全体	108	100.0%
採用したい	16	14.8%
採用を検討したい	25	23.1%
採用を希望しない	12	11.1%
わからない	55	50.9%
未回答・無効回答	0	0.0%

#### Q8



\*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

Q8)-2 保健医療学研究科 保健医療学専攻(仮称)修了者の採用意向人数

Q8)-2 福井医療大学 大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻(仮称)の修了者の採用意向人数

Q8)採用意向	採用希望人数内訳(人)	
採用したい	16事業所→計19人	うち4事業所→未回答
採用を検討したい	25事業所→計33人	うち5事業所→未回答

回答事業所の保健医療学研究科 保険医療学専攻(仮称)修了者の採用意向人数は、「採用したい」が16事業所(うち4事業所は未回答)19人、「採用を検討したい」が25事業所(うち5事業所は未回答)33人となっており、これらの合計は人数を回答した事業所のみで52人となっている。この数値は「採用したい」のみで入学定員(10人)の1.9倍、「採用を検討したい」まで含めると5.2倍となる。以上から、福井医療大学 大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻(仮称)修了者に対する一定の採用需要があるといえる。

### Q9) 採用したい大学院修了者のコース

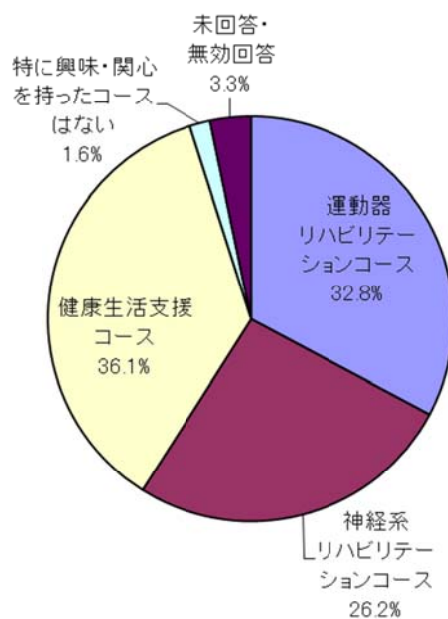
\*Q8)-1で「採用したい」「採用を検討したい」と回答した方のみ、複数選択可

採用したい大学院修了者のコースについては、「健康生活支援コース」22 事業所 (36.1%)、「運動器リハビリテーションコース」20 事業所 (32.8%)、「神経系リハビリテーションコース」16 事業所 (26.2%)と続いている。

Q9) どのようなコースを修めた学生の採用をお考えですか。

	回答数(事業所)	構成比(%)
全体	61	100.0%
運動器リハビリテーションコース	20	32.8%
神経系リハビリテーションコース	16	26.2%
健康生活支援コース	22	36.1%
特に興味・関心を持ったコースはない	1	1.6%
未回答・無効回答	2	3.3%

### Q9



\*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

### Q10) 大学院修了者への期待

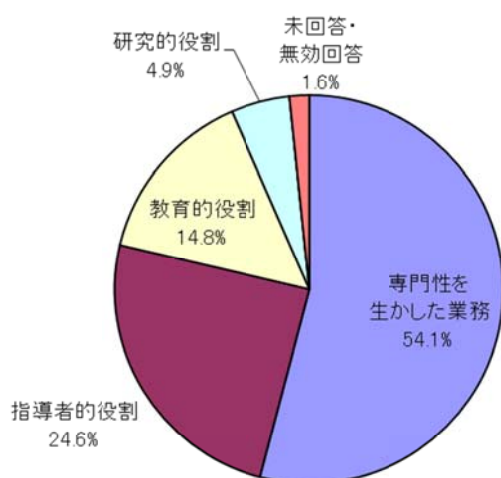
\*Q8)-1で「採用したい」「採用を検討したい」と回答した方のみ、複数選択可

大学院修了者への期待については、「専門性を活かした業務」33事業所(54.1%)、「指導者の役割」15事業所(24.6%)、「教育的役割」9事業所(14.8%)と続いている。一方、「研究的役割」は3事業所(4.9%)に留まっている。

#### Q10) 採用後、大学院修了者に何を期待されますか。

	回答数(事業所)	構成比(%)
全体	61	100.0%
専門性を活かした業務	33	54.1%
指導者の役割	15	24.6%
教育的役割	9	14.8%
研究的役割	3	4.9%
その他	0	0.0%
未回答・無効回答	1	1.6%

### Q10



\*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

Q11) 保健医療学研究科 保健医療学専攻(仮称)への意見・要望

Q11) 福井医療大学 大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻(仮称)に対するご意見・ご要望をお聞かせください。

Q11
より専門特化した神経学リハスタッフが必要と思います。
200床以上の基幹病院において指導者としての役割等必要性を感じていますが、中小病院では実践力を期待しています。
PT、OTの採用を募集しております。Uターンの方がいましたらぜひご紹介下さい。大学院は科学的論理的思考が身につくのですばらしいと思います。
頂いたパンフレットだけでは、どういう職種の資格者が育成されるのかよくわからなかった。抽象的、知識があっても何が出来る人が育成されるのか説明がほしい(4大で〇〇の資格をとった人が、さらに学術的な研究をするなど)。
今後共、宜しくお願い致します。
指導的役割となれる人材を育ててほしいと思います。
人員基準に必要な職種であれば採用を検討したい。
リハビリ?看護?その辺りをターゲットとしているのかパンフレットでは不明(看護と認識があるが、主にリハビリとの印象)。
大学院修了者を採用したいと思っても、福井総合病院でかかえるようなことがあると困ります。基礎研究をしっかりと積んだ人材を育成していただきたい。
ぜひ一度、ごあいさつに伺います。
日頃より大変お世話になりありがとうございます。引き続き当院から求人の際にはご紹介をよろしく願いいたします。
より高度な知識、技術を持つ専門家の育成に期待します。
現在は採用を考えることはできませんが、リハビリ部門の充実を図っていく時期にはお世話になりたいと考えております。



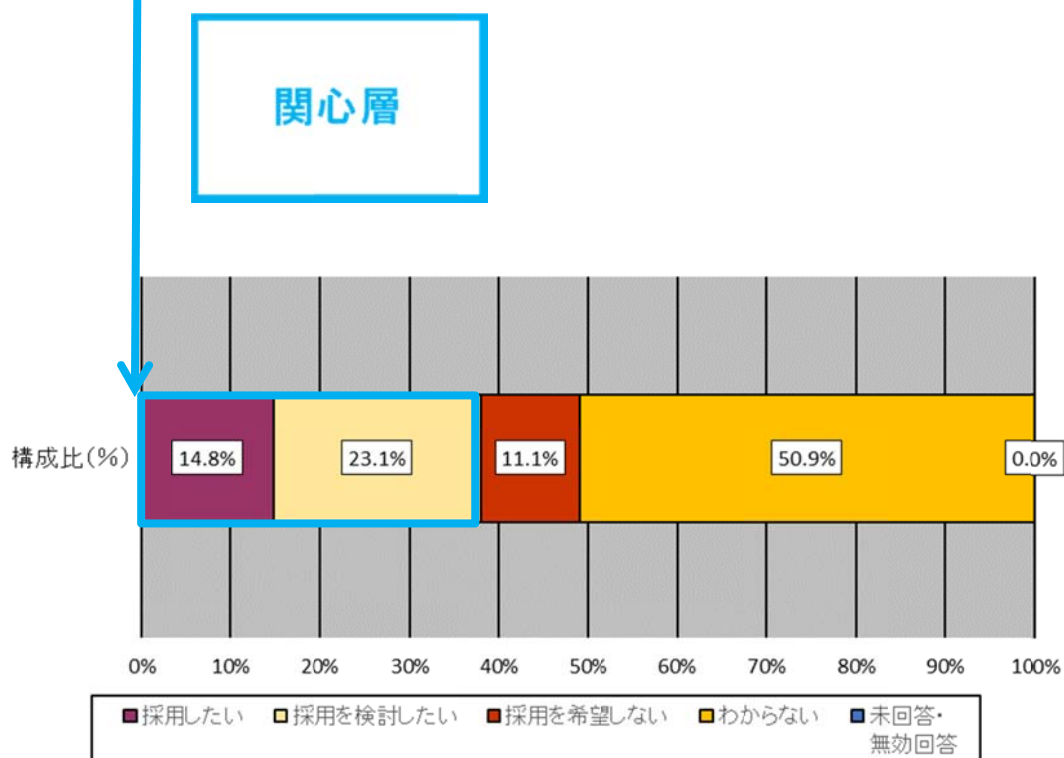
#### 4. 保健医療学研究科 保健医療学専攻(仮称)への関心分析

##### 福井医療大学 大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻(仮称)の関心層

福井医療大学 大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻(仮称)への関心を分析するため、次のとおり「関心層」を定義する。Q8)-1において、修了者を「採用したい」16事業所(14.8%)、「採用を検討したい」25事業所(23.1%)と回答した計41事業所(37.9%)を「関心層」と定義し、次項より「関心層」の傾向を分析する。

Q8)-1 福井医療大学 大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻(仮称)の修了者の採用について、どのようにお考えですか。

	回答数(事業所)	構成比(%)
全体	108	100.0%
採用したい	16	14.8%
採用を検討したい	25	23.1%
採用を希望しない	12	11.1%
わからない	55	50.9%
未回答・無効回答	0	0.0%



\*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

\*次頁以降の集計は、各設問から未回答・無効回答を除いて集計

### Q1) 事業所の種別×Q8)-1 採用意向

関心層の事業所の種別は、「病院、診療所」26 事業所 (65.0%) が最も多く、「福祉施設」10 事業所 (25.0%)、「地方自治体」2 事業所 (5.0%) と続いている。また、dif (関心層での比率－全体での比率) では、関心層と事業所の種別で「福祉施設」と回答した層に一定の相関性がみられる。

### Q1) 事業所の種別と Q8)-1 福井医療大学 大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻 (仮称) の採用意向との相関性

単位：(事業所) (%)

Q1)種別	全体		採用したい		採用を検討したい		関心層		dif	採用を希望しない		わからない	
調査数	107	100.0%	15	100.0%	25	100.0%	40	100.0%		12	100.0%	55	100.0%
病院、診療所	84	78.5%	11	73.3%	15	60.0%	26	65.0%	-13.5%	9	75.0%	49	89.1%
福祉施設	17	15.9%	3	20.0%	7	28.0%	10	25.0%	9.1%	3	25.0%	4	7.3%
保健所	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
地方自治体	4	3.7%	0	0.0%	2	8.0%	2	5.0%	1.3%	0	0.0%	2	3.6%
教育機関	1	0.9%	0	0.0%	1	4.0%	1	2.5%	1.6%	0	0.0%	0	0.0%
一般企業	1	0.9%	1	6.7%	0	0.0%	1	2.5%	1.6%	0	0.0%	0	0.0%
その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

上記は、表頭(表の上側)に「Q8)-1 福井医療大学 大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻 (仮称)」を尋ねた質問の回答を記載。

それぞれの回答者の中での、回答数と構成比(%)を記載した。

構成比(%)は表頭の「調査数」が100%となるように計算。

\*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

\*未回答・無効回答を除いて集計

\*dif=関心層での比率－全体での比率

## Q2) 事業所の所在地×Q8)-1 採用意向

関心層の事業所の所在地は、「福井県」23 事業所 (56.1%) が最も多く 5 割以上となっており、「石川県」「富山県」「滋賀県」「京都府」4 事業所 (9.8%) と続いている。また、dif (関心層での比率－全体での比率) では、関心層と事業所の所在地で「福井県」と回答した層に一定の相関性がみられ、「京都府」と回答した層にやや相関性がみられる。

## Q2) 事業所の所在地と Q8)-1 福井医療大学 大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻 (仮称) の採用意向との相関性

単位：(事業所) (%)

Q2)所在地	全体		採用したい		採用を検討したい		関心層		dif	採用を希望しない		わからない	
調査数	108	100.0%	16	100.0%	25	100.0%	41	100.0%		12	100.0%	55	100.0%
福井県	50	46.3%	10	62.5%	13	52.0%	23	56.1%	9.8%	5	41.7%	22	40.0%
石川県	11	10.2%		0.0%	4	16.0%	4	9.8%	-0.4%	1	8.3%	6	10.9%
富山県	16	14.8%	2	12.5%	2	8.0%	4	9.8%	-5.1%	1	8.3%	11	20.0%
岐阜県	10	9.3%	2	12.5%	0	0.0%	2	4.9%	-4.4%	2	16.7%	6	10.9%
滋賀県	15	13.9%	1	6.3%	3	12.0%	4	9.8%	-4.1%	3	25.0%	8	14.5%
京都府	6	5.6%	1	6.3%	3	12.0%	4	9.8%	4.2%	0	0.0%	2	3.6%
その他	0	0.0%		0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

上記は、表頭(表の上側)に「Q8)-1 福井医療大学 大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻 (仮称)」を尋ねた質問の回答を記載。

それぞれの回答者の中での、回答数と構成比(%)を記載した。

構成比(%)は表頭の「調査数」が100%となるように計算。

\*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

\*未回答・無効回答を除いて集計

\*dif=関心層での比率－全体での比率

### Q3) 事業所の規模×Q8)-1 採用意向

関心層の事業所の規模は、「100-499人」20事業所(48.8%)が最も多く、5割近くとなっており、「50-99人」8事業所(19.5%)、「50人未満」7事業所(17.1%)と続いている。また、dif(関心層での比率-全体での比率)では、関心層と事業所の所在地で「50-99人」「50人未満」「1,000-4,999人」と回答した層にやや相関性がみられる。

### Q3) 事業所の規模と Q8)-1 福井医療大学 大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻(仮称)の採用意向との相関性

単位：(事業所) (%)

Q3)従業員数	全体		採用したい		採用を検討したい		関心層		dif	採用を希望しない		わからない	
調査数	108	100.0%	16	100.0%	25	100.0%	41	100.0%		12	100.0%	55	100.0%
50人未満	16	14.8%	3	18.8%	4	16.0%	7	17.1%	2.3%	2	16.7%	7	12.7%
50-99人	18	16.7%	3	18.8%	5	20.0%	8	19.5%	2.8%	4	33.3%	6	10.9%
100-499人	56	51.9%	6	37.5%	14	56.0%	20	48.8%	-3.1%	6	50.0%	30	54.5%
500-999人	10	9.3%	2	12.5%	0	0.0%	2	4.9%	-4.4%	0	0.0%	8	14.5%
1,000-4,999人	8	7.4%	2	12.5%	2	8.0%	4	9.8%	2.3%	0	0.0%	4	7.3%
5,000人以上	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

上記は、表頭(表の上側)に「Q8)-1 福井医療大学 大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻(仮称)」を尋ねた質問の回答を記載。

それぞれの回答者の中での、回答数と構成比(%)を記載した。

構成比(%)は表頭の「調査数」が100%となるように計算。

\*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

\*未回答・無効回答を除いて集計

\*dif=関心層での比率-全体での比率

#### Q5) 人材充足状況×Q8)-1 採用意向

関心層の人材充足状況は、「不足している」15 事業所 (36.6%) が最も多く、「やや不足している」12 事業所 (29.3%)、「ある程度充足している」11 事業所 (26.8%) と続いている。また、dif(関心層での比率－全体での比率)では、関心層と人材充足状況で「不足している」と回答した層に一定の相関性がみられる。

#### Q5) 人材充足状況と Q8)-1 福井医療大学 大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻(仮称)の採用意向との相関性

単位：(事業所) (%)

Q5)充足状況	全体		採用したい		採用を検討したい		関心層		dif	採用を希望しない		わからない	
調査数	106	100.0%	16	100.0%	25	100.0%	41	100.0%		11	100.0%	54	100.0%
不足している	29	27.4%	6	37.5%	9	36.0%	15	36.6%	9.2%	3	27.3%	11	20.4%
やや不足している	35	33.0%	5	31.3%	7	28.0%	12	29.3%	-3.8%	3	27.3%	20	37.0%
ある程度充足している	31	29.2%	5	31.3%	6	24.0%	11	26.8%	-2.4%	4	36.4%	16	29.6%
充足している	9	8.5%	0	0.0%	3	12.0%	3	7.3%	-1.2%	1	9.1%	5	9.3%
わからない	2	1.9%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	-1.9%	0	0.0%	2	3.7%

上記は、表頭(表の上側)に「Q8)-1 福井医療大学 大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻(仮称)」を尋ねた質問の回答を記載。

それぞれの回答者の中での、回答数と構成比(%)を記載した。

構成比(%)は表頭の「調査数」が100%となるように計算。

\*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

\*未回答・無効回答を除いて集計

\*dif=関心層での比率－全体での比率

#### Q6) 人材採用の際の重視点(2つまで選択)×Q8)-1 採用意向

関心層の人材採用の際の重視点は、「コミュニケーション能力」26 事業所(34.2%)が最も多く、「チームで働く力」25 事業所(32.9%)、「課題発見・課題解決能力」9 事業所(11.8%)と続いている。また、dif(関心層での比率－全体での比率)では、関心層と人材採用の際の重視点で「課題発見・課題解決能力」「チームで働く力」と回答した層にやや相関性がみられる。

#### Q6) 人材採用の際の重視点と Q8)-1 福井医療大学 大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻(仮称)の採用意向との相関性

単位：(事業所) (%)

Q6)重視	全体		採用したい		採用を検討したい		関心層		dif	採用を希望しない		わからない	
調査数	197	100.0%	26	100.0%	50	100.0%	76	100.0%		24	100.0%	97	100.0%
コミュニケーション能力	68	34.5%	7	26.9%	19	38.0%	26	34.2%	-0.3%	7	29.2%	35	36.1%
語学力	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
課題発見・課題解決能力	14	7.1%	4	15.4%	5	10.0%	9	11.8%	4.7%	0	0.0%	5	5.2%
チームで働く力	61	31.0%	9	34.6%	16	32.0%	25	32.9%	1.9%	7	29.2%	29	29.9%
チャレンジ精神・積極性	16	8.1%	2	7.7%	4	8.0%	6	7.9%	-0.2%	4	16.7%	6	6.2%
国際感覚(広い視野・価値観)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
論理的思考力	2	1.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	-1.0%	0	0.0%	2	2.1%
専攻分野の基礎学力	20	10.2%	4	15.4%	1	2.0%	5	6.6%	-3.6%	3	12.5%	12	12.4%
社会常識	15	7.6%	0	0.0%	5	10.0%	5	6.6%	-1.0%	3	12.5%	7	7.2%
その他	1	0.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	-0.5%	0	0.0%	1	1.0%

上記は、表頭(表の上側)に「Q8)-1 福井医療大学 大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻(仮称)」を尋ねた質問の回答を記載。

それぞれの回答者の中での、回答数と構成比(%)を記載した。

構成比(%)は表頭の「調査数」が100%となるように計算。

\*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

\*未回答・無効回答を除いて集計

\*dif=関心層での比率－全体での比率

## Q7) 設置の必要性×Q8)-1 採用意向

関心層の設置の必要性は、「ある程度の必要性を感じる」20 事業所 (48.8%) が最も多く、「必要性を感じる」16 事業所 (39.0%) と続いている。また、dif (関心層での比率－全体での比率) では、関心層と人材採用の際の重視点で「必要性を感じる」と回答した層に非常に高い相関性がみられ、「ある程度の必要性を感じる」と回答した層に高い相関性がみられる。

## Q7) 設置の必要性と Q8)-1 福井医療大学 大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻 (仮称) の採用意向との相関性

単位：(事業所) (%)

Q7)必要性	全体		採用したい		採用を検討したい		関心層		dif	採用を希望しない		わからない	
調査数	107	100.0%	16	100.0%	25	100.0%	41	100.0%		12	100.0%	54	100.0%
必要性を感じる	20	18.7%	10	62.5%	6	24.0%	16	39.0%	20.3%	0	0.0%	4	7.4%
ある程度の必要性を感じる	37	34.6%	5	31.3%	15	60.0%	20	48.8%	14.2%	0	0.0%	17	31.5%
あまり必要性を感じない	17	15.9%	0	0.0%	2	8.0%	2	4.9%	-11.0%	8	66.7%	7	13.0%
必要性を感じない	7	6.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	-6.5%	4	33.3%	3	5.6%
わからない	26	24.3%	1	6.3%	2	8.0%	3	7.3%	-17.0%	0	0.0%	23	42.6%

上記は、表頭(表の上側)に「Q8)-1 福井医療大学 大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻 (仮称)」を尋ねた質問の回答を記載。

それぞれの回答者の中での、回答数と構成比(%)を記載した。

構成比(%)は表頭の「調査数」が100%となるように計算。

\*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

\*未回答・無効回答を除いて集計

\*dif=関心層での比率－全体での比率

### Q9) 採用したい大学院修了者の専門分野×Q8)-1 採用意向

関心層の採用したい大学院修了者の専門分野は、「健康生活支援コース」22 事業所 (37.3%) が最も多く、「運動器リハビリテーションコース」20 事業所 (33.9%)、「神経系リハビリテーションコース」16 事業所 (27.1%) と続いている。また、また、Q9)は関心層のみを対象とした設問であることから、dif(関心層での比率－全体での比率)では各項目において相関性はみられなかった。

### Q9) 採用したい大学院修了者のコースと Q8)-1 福井医療大学 大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻(仮称)の採用意向との相関性

単位：(事業所) (%)

Q9)採用コース	全体		採用したい		採用を検討したい		関心層		dif	採用を希望しない		わからない	
調査数	59	100.0%	24	100.0%	35	100.0%	59	100.0%		0	0.0%	0	0.0%
運動器リハビリテーションコース	20	33.9%	9	37.5%	11	31.4%	20	33.9%	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
神経系リハビリテーションコース	16	27.1%	6	25.0%	10	28.6%	16	27.1%	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
健康生活支援コース	22	37.3%	8	33.3%	14	40.0%	22	37.3%	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
特に興味・関心を持ったコースはない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
わからない	1	1.7%	1	4.2%	0	0.0%	1	1.7%	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

上記は、表頭(表の上側)に「Q8)-1 福井医療大学 大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻(仮称)」を尋ねた質問の回答を記載。

それぞれの回答者の中での、回答数と構成比(%)を記載した。

構成比(%)は表頭の「調査数」が100%となるように計算。

\*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

\*未回答・無効回答を除いて集計

\*dif=関心層での比率－全体での比率



### Q10) 大学院修了者への期待×Q8)-1 採用意向

関心層の大学院修了者への期待は、「専門性を活かした業務」33 事業所 (55.0%) が最も多く、「指導者的役割」15 事業所 (25.0%)、「教育的役割」9 事業所 (15.0%) と続いている。また、Q10) は関心層のみを対象とした設問であることから、dif (関心層での比率－全体での比率) では各項目において相関性はみられなかった。

### Q10) 大学院修了者への期待と Q8)-1 福井医療大学 大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻 (仮称) の採用意向との相関性

単位：(事業所) (%)

Q10)期待	全体		採用したい		採用を検討したい		関心層		dif	採用を希望しない		わからない	
調査数	60	100.0%	22	100.0%	38	100.0%	60	100.0%		0	0.0%	0	0.0%
専門性を活かした業務	33	55.0%	13	59.1%	20	52.6%	33	55.0%	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
指導者的役割	15	25.0%	3	13.6%	12	31.6%	15	25.0%	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
教育的役割	9	15.0%	5	22.7%	4	10.5%	9	15.0%	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
研究的役割	3	5.0%	1	4.5%	2	5.3%	3	5.0%	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

上記は、表頭(表の上側)に「Q8)-1 福井医療大学 大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻(仮称)」を尋ねた質問の回答を記載。

それぞれの回答者の中での、回答数と構成比(%)を記載した。

構成比(%)は表頭の「調査数」が100%となるように計算。

\*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

\*未回答・無効回答を除いて集計

\*dif=関心層での比率－全体での比率

## 5. 採用需要推計

### 保健医療学研究科 保健医療学専攻(仮称)修了者の採用需要推計

福井医療大学 大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻(仮称)修了者が採用される可能性のある人数は下記のとおり。

Q8)採用意向	採用希望人数内訳(人)	
採用したい	16事業所→計19人	うち4事業所→未回答
採用を検討したい	25事業所→計33人	うち5事業所→未回答

実際に採用に至るか否かについては、就職希望者個人の人格や能力が大きく影響することから、ここでは「採用したい」に加えて、「採用を検討したい」までを採用需要として定義する。上記の採用意向で人数が未回答であった事業所の採用希望人数を保守的に1事業所当たり1人と仮定した場合、推計採用意向人数(採用の可能性のある人数)は下記のとおりとなる。

Q8)採用意向	採用希望人数内訳(人)
採用したい 16事業所	12事業所19人+4事業所4人=23人
採用を検討したい 25事業所	20事業所33人+5事業所5人=38人
合計	61人

調査結果に基づき、福井医療大学 大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻(仮称)修了者の推計採用意向人数は「採用したい」のみで23人、「採用を検討したい」まで含めると61人となる。

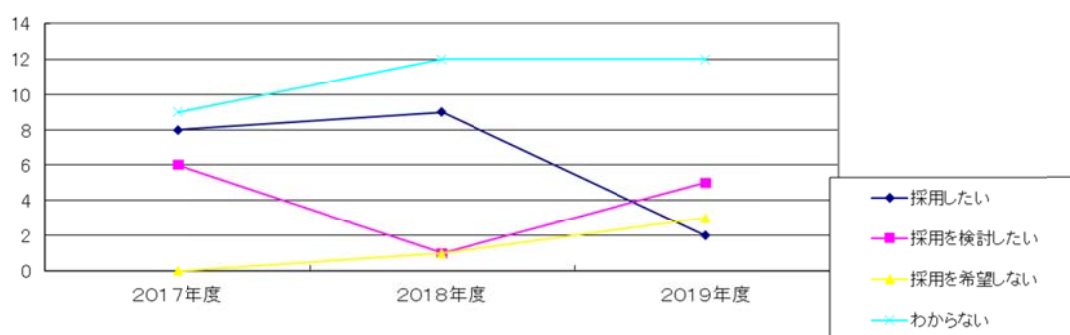
### 保健医療学研究科 保健医療学専攻(仮称)修了者の潜在的採用需要推計

以下は回答事業所の「Q8」-1 保健医療学研究科 保健医療学専攻(仮称)修了者の採用意向と各事業所の2017年度～2019年度の大学院卒業者の採用実績推移を表にしたものである。  
「採用したい」「採用を検討したい」と回答した関心層41事業所の採用実績合計は、2017年度14人、2018年度10人、2019年度7人となっている。

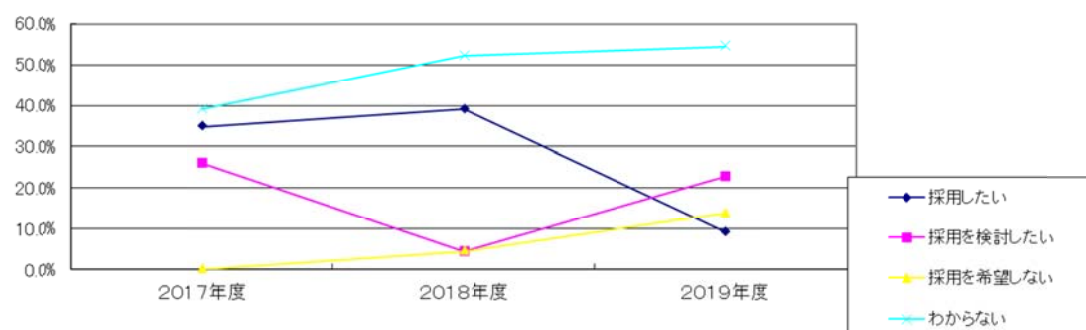
### 福井医療大学 大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻(仮称)の採用意向が高い事業所の大学院卒業者の採用実績推移(2017年度～2019年度)

	2017年度		2018年度		2019年度	
	採用人数(人)	構成比(%)	採用人数(人)	構成比(%)	採用人数(人)	構成比(%)
調査数	23	100.0%	23	100.0%	22	100.0%
採用したい	8	34.8%	9	39.1%	2	9.1%
採用を検討したい	6	26.1%	1	4.3%	5	22.7%
採用を希望しない	0	0.0%	1	4.3%	3	13.6%
わからない	9	39.1%	12	52.2%	12	54.5%

### 事業所の採用人数推移(2017年度～2019年度)



### 事業所の構成比率(2017年度～2019年度)



## 6. 補記

### アンケート説明文 1/2

■ **学納金について**  
初年度総額 800,000 円（入学金 200,000円、授業料等 600,000円）、次年度授業料等 600,000円

■ **参考**  
近県における同系統分野の大学院  
初年度総額 国立 / 817,800円  
公立 / 696,200円～968,800円  
私立 / 600,000円～945,000円

■ **設置予定地**  
福井県福井市江上町55-13-1



■ **交通アクセス**





福井医療大学大学院  
保健医療学研究科  
保健医療学専攻（仮称）  
2021年4月開設予定

 **福井医療大学**

※ 詳細概要は計画中のためあり、今後変更になる可能性があります。

■ お問い合わせ先 【福井医療大学 大学院開設準備室】 〒910-3190 福井県福井市江上町55-13-1  
TEL : 0776-59-2200 FAX : 0776-59-2205 E-mail : fcm-soumu@kki.biglobe.ne.jp

## 保健医療学研究科について

本学は、保健医療学を「あらゆるライフサイクル、ライフステージ、場にある人々の生涯を通じての健康管理を補助し、疾病時には早期の健康回復を促す為の最適な援助方法を研究する学問」だと捉えて、そこには、リハビリテーション、看護といった専門的知識を深めていくための研究に加え、それらを有機的に統合するための能力向上や組織運営に関する研究も含まれます。

福井医療大学大学院では、保健医療学の定義に基づき、地域への健康政策や地域住民個々の健康増進、疾病・障害予防、健康回復、並びに保健医療サービス提供者の教育や生産性向上に関する教育研究を行うことで、人々の健康を追求することを目指します。

具体的実現のため、「運動器リハビリテーション」、「神経系リハビリテーション」、「健康生活支援コース」の3つのコースを設置する予定です。

## ● 各コースの養成する人材像



### ■ 運動器リハビリテーションコース

病院、施設、地域などの臨床現場、競技スポーツや障がい者スポーツなどのスポーツ現場において、運動器障害をもつ対象者に対し、障害に基づいた適切な評価やリハビリテーションを行い、専門性を活かした上での支援を実践できる人材、さらに運動器、スポーツ医学に関する研究課題を探索し続け、各々の領域でのリーダー的役割を担える人材を養成します。



### ■ 神経系リハビリテーションコース

神経系疾患を科学的に理解し、研究課題を探索し続け、さらに病院、施設、地域などの臨床現場において、各々の専門性を発揮することと、病態に基づいた適切な評価や治療に結びつけることのできるリーダー的役割を担える人材を養成します。さらに多職種の多面的観点を支援に活かしながら実践、マネジメントし、社会情勢の変化や実践に基づく生活支援の研究課題を探索しつづけ、地域生活の維持に貢献できる人材を養成します。



### ■ 健康生活支援コース

あらゆるライフサイクル、ライフステージ、場における人々が健康な生活を維持あるいは回復し新しい生活を構築していくための支援方法を、それぞれの専門性の中にあるプロフェッショナルズを発揮し、多職種の多面的観点を支援に活かしながら実践できる人材を養成します。さらに社会情勢の変化や実践に基づく健康生活支援の研究課題を探索しつづけ、健康生活の向上に貢献できる人材を養成します。

## ● 入学定員(予定)

名称	入学定員	収容定員
保健医療学研究科 保健医療学専攻	10名	20名

## ● 想定される就職分野

地方自治体 保健・医療・福祉施設 教育機関



## アンケート調査票 1/2

### 福井医療大学 大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻(仮称)設置計画に係る 事業所アンケート調査

福井医療大学では、新たに大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻(仮称)を設置することを検討しています。設置計画検討の参考として、皆様の率直なご意見をお聞かせください。

【質問 1】 貴事業所の主たる種別は次のどれですか？ 1つ選び○をつけてください。

- |          |        |        |
|----------|--------|--------|
| 1 病院、診療所 | 2 福祉施設 | 3 保健所  |
| 4 地方自治体  | 5 教育機関 | 6 一般企業 |
| 7 その他( ) |        |        |

【質問 2】 貴事業所の主たる所在地に○をつけてください。

- |          |       |       |
|----------|-------|-------|
| 1 福井県    | 2 石川県 | 3 富山県 |
| 4 岐阜県    | 5 滋賀県 | 6 京都府 |
| 7 その他( ) |       |       |

【質問 3】 貴事業所の従業員数(正規職員)について、該当するもの1つに○をつけてください。

- |            |                |            |
|------------|----------------|------------|
| 1 50名未満    | 2 50～99名       | 3 100～499名 |
| 4 500～999名 | 5 1,000～4,999名 | 6 5,000名以上 |

【質問 4】 貴事業所では、大学院卒業者を過去3年間で何人採用されましたか？採用人数をご記入ください。\*詳細がご不明な場合は概数をご記入ください。

2017年度	2018年度	2019年度
( )人	( )人	( )人

【質問 5】 貴事業所では、過去3年間で採用された職種の充足状況についてどのようにお考えですか？次の中から1つ選び○をつけてください。

- |          |            |              |
|----------|------------|--------------|
| 1 不足している | 2 やや不足している | 3 ある程度充足している |
| 4 充足している | 5 わからない    |              |

【質問 6】 貴事業所では人材採用の際、どのような点を重視されていますか？

次の中から2つまで選び、○をつけてください。

- |               |                  |
|---------------|------------------|
| 1 コミュニケーション能力 | 2 語学力            |
| 3 課題発見・課題解決能力 | 4 チームで働く力        |
| 5 チャレンジ精神・積極性 | 6 国際感覚(広い視野・価値観) |
| 7 論理的思考力      | 8 専攻分野の基礎学力      |
| 9 社会常識        | 10 その他( )        |

⇒裏面へ続く

## アンケート調査票 2/2

【質問 7～11】は、別紙「福井医療大学 大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻(仮称)」の概要をご覧いただき、ご記入ください。

【質問 7】福井医療大学 大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻(仮称)についてどの程度必要性を感じますか。次の中から1つ選び○をつけてください。

- 1 必要性を感じる      2 ある程度の必要性を感じる      3 あまり必要性を感じない  
4 必要性を感じない      5 わからない

【質問 8】福井医療大学 大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻(仮称)の修了者の採用について、どのようにお考えですか。次の中から1つ選び○をつけてください。

- 1 採用したい( )人程度      2 採用を検討したい( )人程度  
3 採用を希望しない      4 わからない

【質問 9】質問 8 で「1 採用したい」「2 採用を検討したい」と回答された方にお聞きます。どのようなコースを修めた学生の採用をお考えですか。次の中から該当するものを選び○をつけてください(複数回答可)。その他の方はそのまま質問 11 へお進みください。

- 1 運動器リハビリテーションコース      2 神経系リハビリテーションコース  
3 健康生活支援コース      4 特に興味・関心を持ったコースはない  
5 わからない

【質問 10】質問 8 で「1 採用したい」「2 採用を検討したい」と回答された方にお聞きます。採用後、大学院修了者に何を期待されますか。次の中から該当するものを選び○をつけてください(複数回答可)。

- 1 専門性を生かした業務      2 指導者的役割      3 教育的役割  
4 研究的役割      5 その他( )

【質問 11】福井医療大学 大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻(仮称)に対するご意見・ご要望をお聞かせください。

質問は以上で終わりです。ご協力ありがとうございました。

福井医療大学 大学院設置準備室